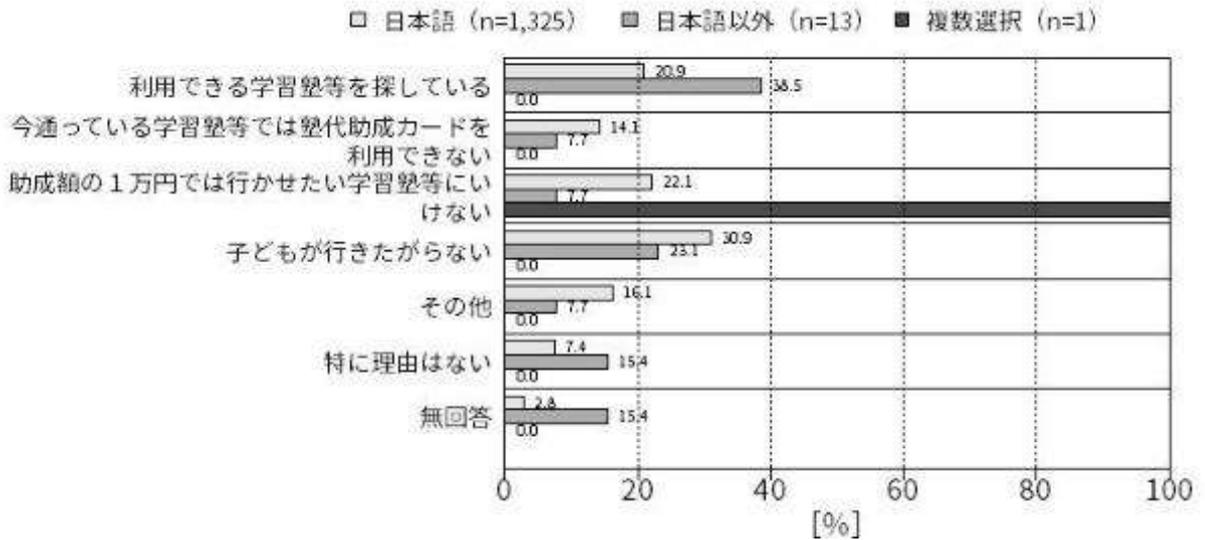


日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由  
 (保護者票 問2 × 保護者票 問19)

<大阪市24区>



<大阪市住吉区>

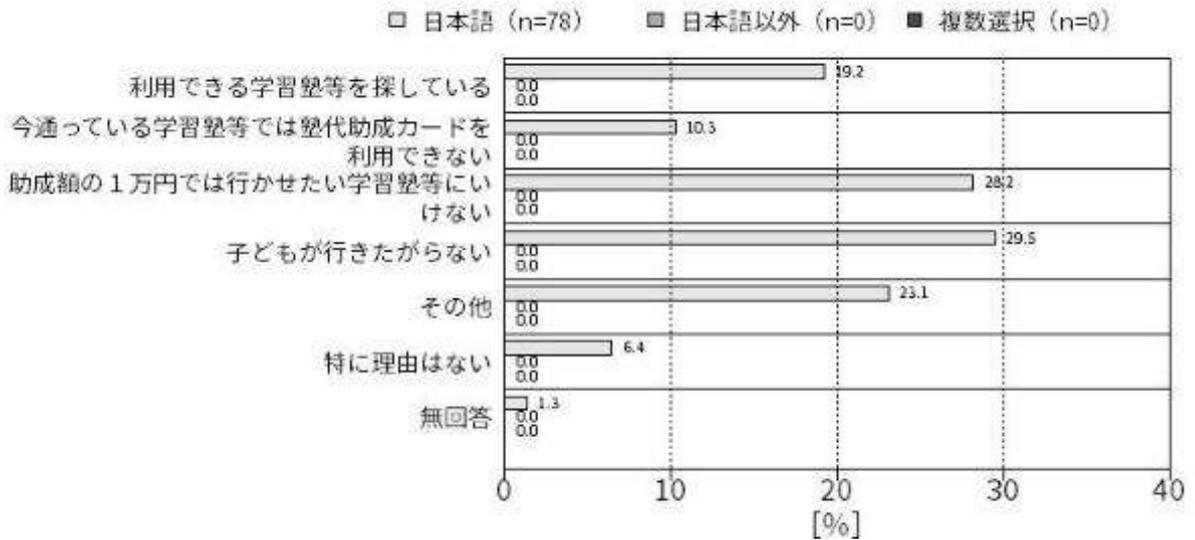


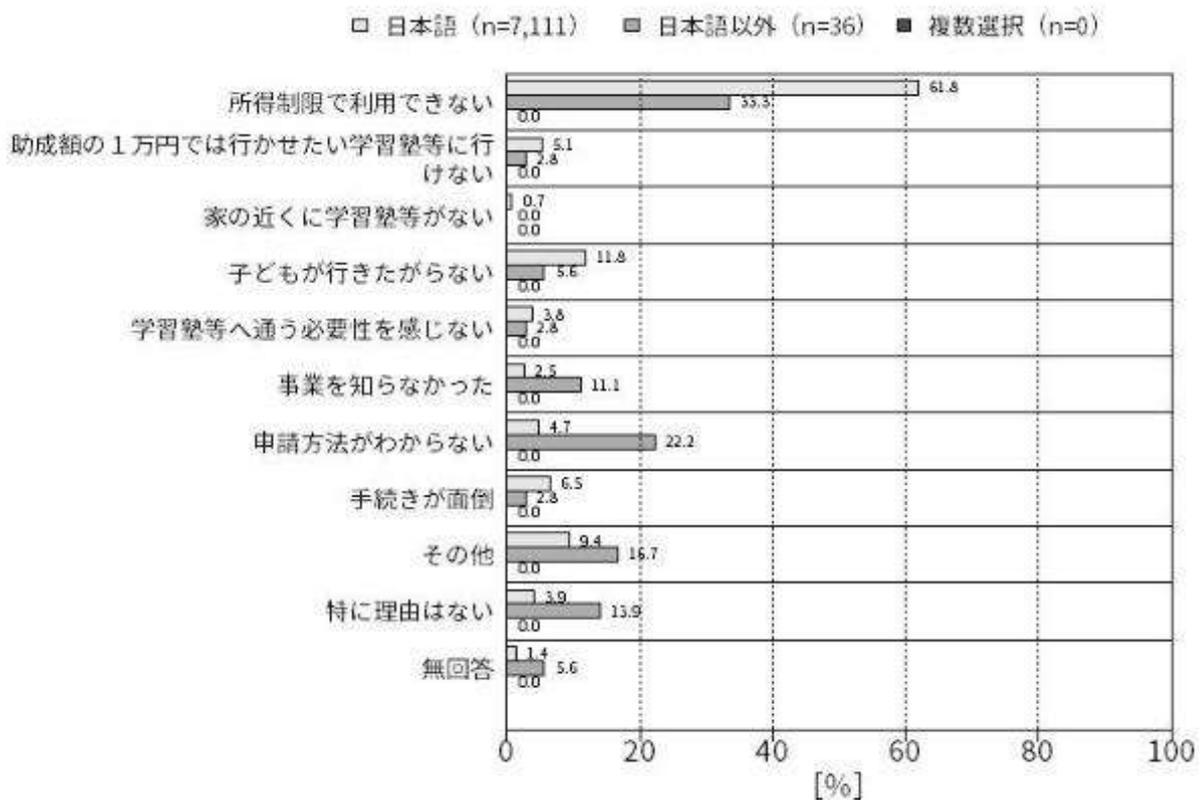
図 279. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由

日本語以外と回答した人数が0名で、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

(保護者票 問2 × 保護者票 問20)

<大阪市24区>



<大阪市住吉区>

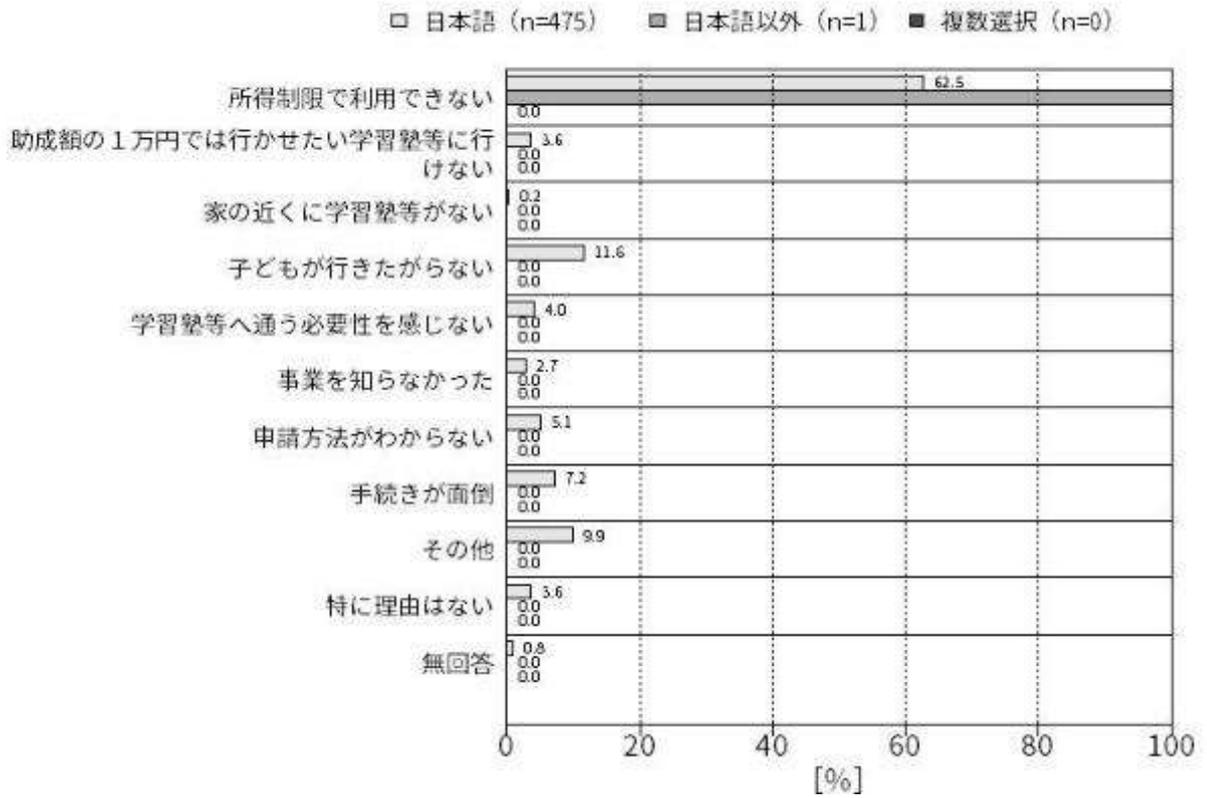


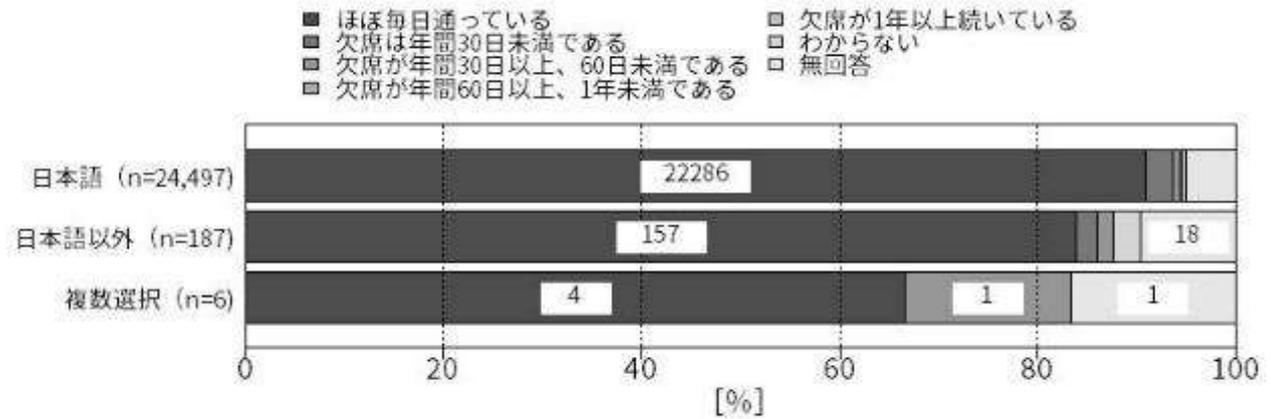
図 280. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

日本語以外と回答した人数が1名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

(保護者票 問2 × 保護者票 問21)

<大阪市24区>



<大阪市住吉区>

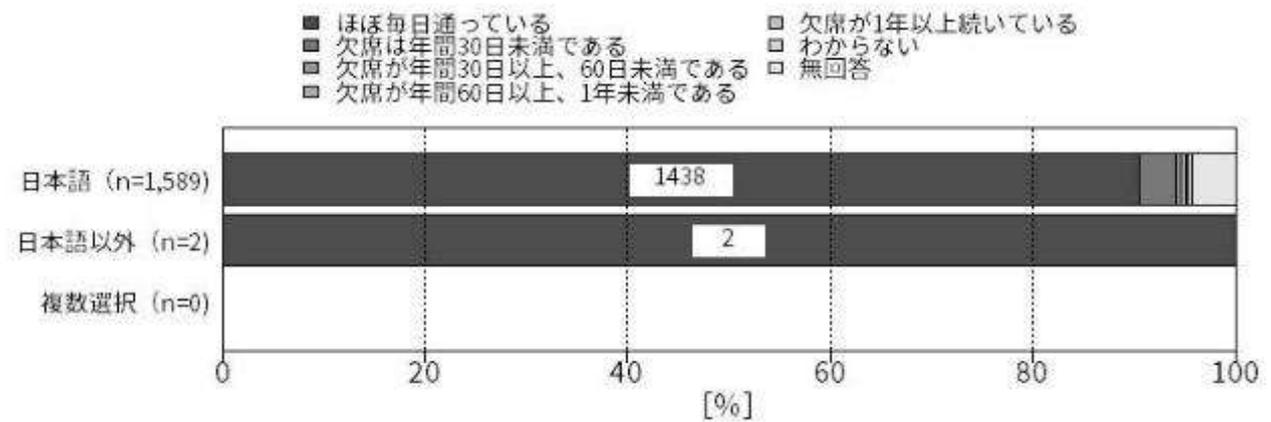


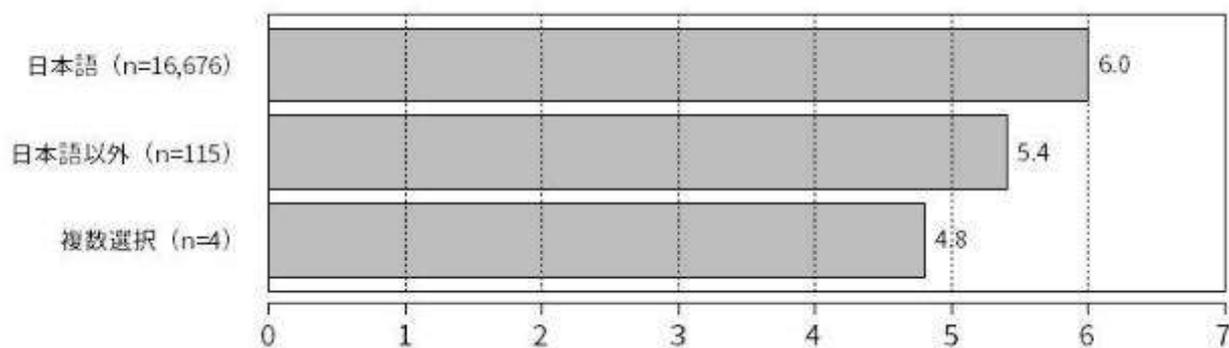
図 281. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

日本語以外と回答した人数が2名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点  
 (保護者票 問2 × 保護者票 問23①~⑦)

※「支えてくれる人得点」については図198上の説明参照。

<大阪市24区>



<大阪市住吉区>

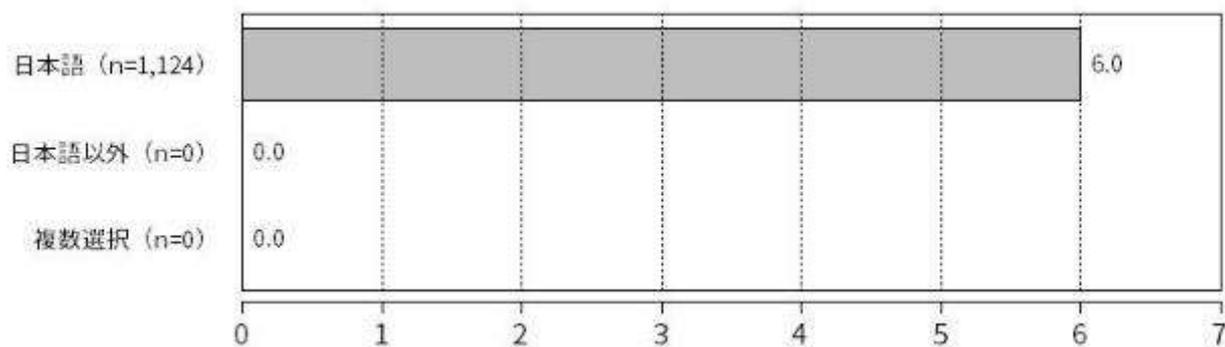


図 282. 日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点

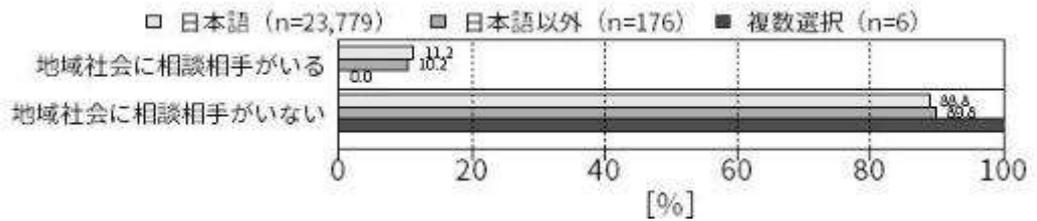
日本語以外と回答した人数が0名であり、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

(保護者票 問2 × 保護者票 問24)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問いに対し、「学校の先生やスクールカウンセラー」「子育て講座(小・中学生を持つ保護者を対象)等を担当するリーダーや職員等」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体」「民間のカウンセラー・電話相談」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪市24区>



<大阪市住吉区>

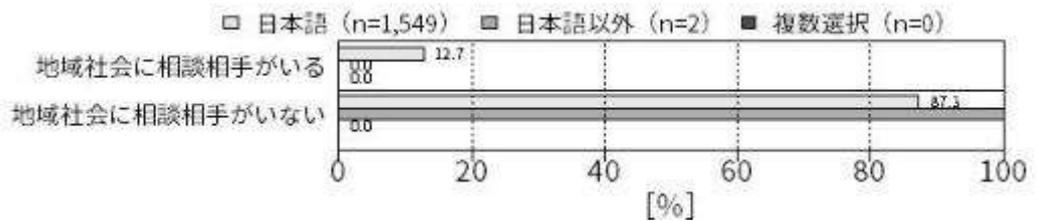


図 283. 日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

日本語以外と回答した人数が2名と少なく、傾向を述べることはできない。

## <家庭生活・学習に関する考察>

困窮度が高まるにつれ、おうちの大人の人と一緒に朝食を取る頻度が下がり、困窮度Ⅰ群では、「まったくくない」「ほとんどない」合わせると41.5%（大阪市全体：35.3%）が朝食を一緒にとっていない。これは中央値以上群と10ポイント以上の差がある。同様に、おうちの大人に宿題をみてもらう頻度、大人と文化活動をする頻度も困窮度が高まるにつれ下がっている。困窮度Ⅰ群において、宿題を見てもらわない子どもは63.3%（大阪市全体63.2%）、文化活動を行わない子どもは81.2%（大阪市全体：78.1%）を占めた。いずれも中央値以上群と7ポイント程度の差があった。

授業以外の勉強時間について、困窮度が高まるにつれ、30分以内しか勉強しない子どもの割合が増える。「まったくくない」または「30分より少ない」時間しかしない人は、中央値以上群で20.0%（大阪市全体：21.0%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群では32.3%（大阪市全体：33.2%）を占める。また、学習理解度が困窮度の高さで下がっていることも見られ、困窮度Ⅰ群では、「ほとんどわからない」「あまりわからない」人が28.0%（大阪市全体：23.4%）になる。勉強時間の短さが学習理解度に影響している可能性が伺える。

同じ時刻に起床しない、朝食を毎日とらないなど生活習慣が確立していない子どものほうが勉強や読書を「まったくくない」傾向がある。これらの生活習慣は、困窮度が高くなると確立していない傾向がみられた。

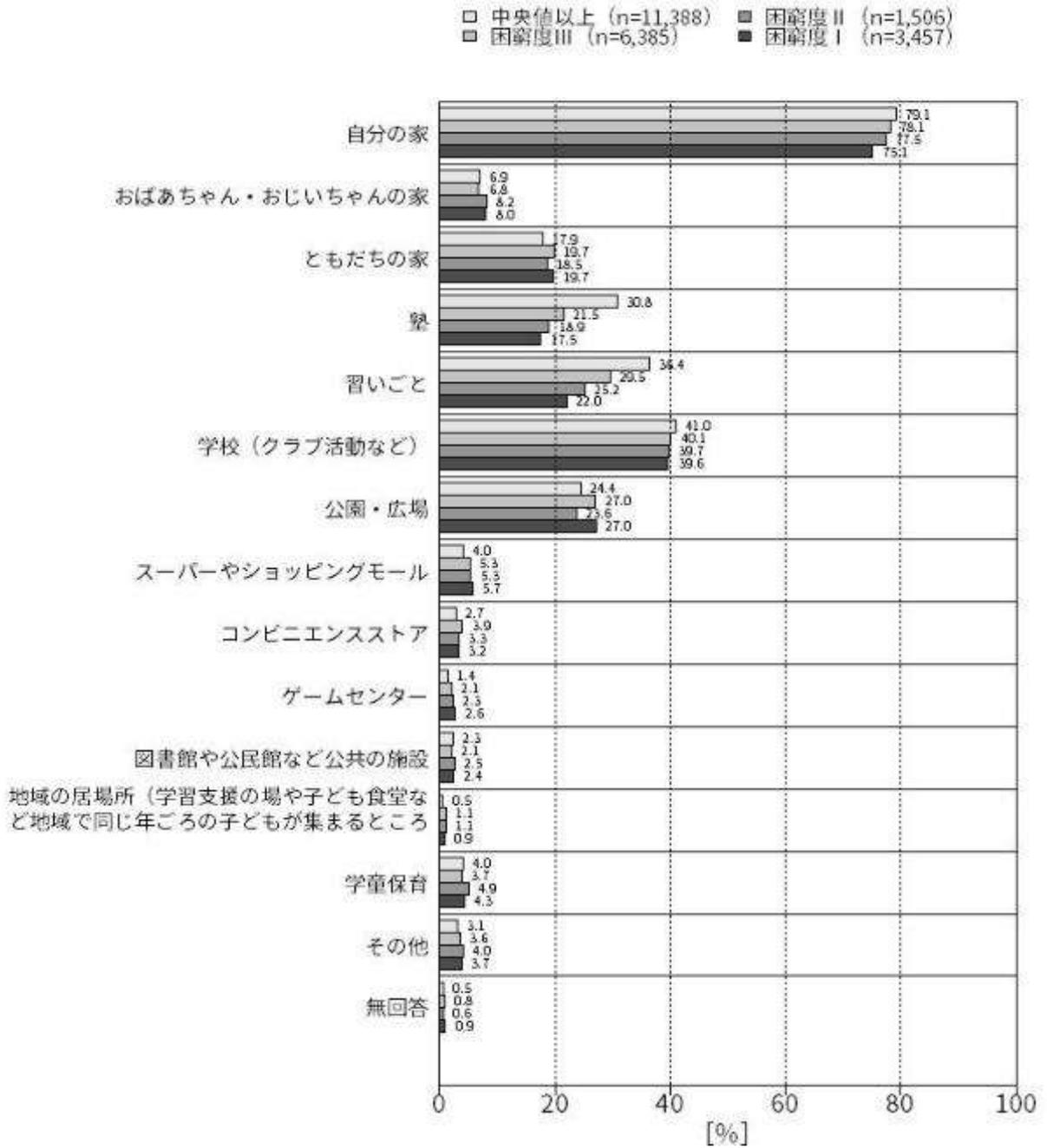
困窮度別に学校への遅刻を見ると、困窮度が高まるにつれ、週に1回以上遅刻をする子どもの割合が増え、困窮度Ⅰ群では、17.9%（大阪市全体：18.4%）である。このように週に1回以上遅刻をする子どもは、おうちの大人と一緒に朝食を食べたり、夕食を食べたり、学校のできごとについて話すかどうかについて「ほとんどない」「まったくくない」と回答する割合がそれぞれ42.0%、3.5%、24.0%であったことが確認された。これらは遅刻をしない子どもよりも高い割合である。同様に、週に1回以上遅刻をする子どもは学校や勉強のことで悩んでいるということも見られた。

また、本調査では、困窮度の高い世帯の子どもが学歴の低い進学先を希望する傾向があることが確認されている。子ども自身の進学希望として「中学」または「高校」と回答した割合は、中央値以上群では10.0%（大阪市全体：11.8%）であるのに対して、困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅱ群、困窮度Ⅰ群ではそれぞれ19.0%、22.9%、25.3%（大阪市全体：19.2%、20.6%、25.4%）であった。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後に過ごす場所（子ども票 問13）

<大阪市 24 区>



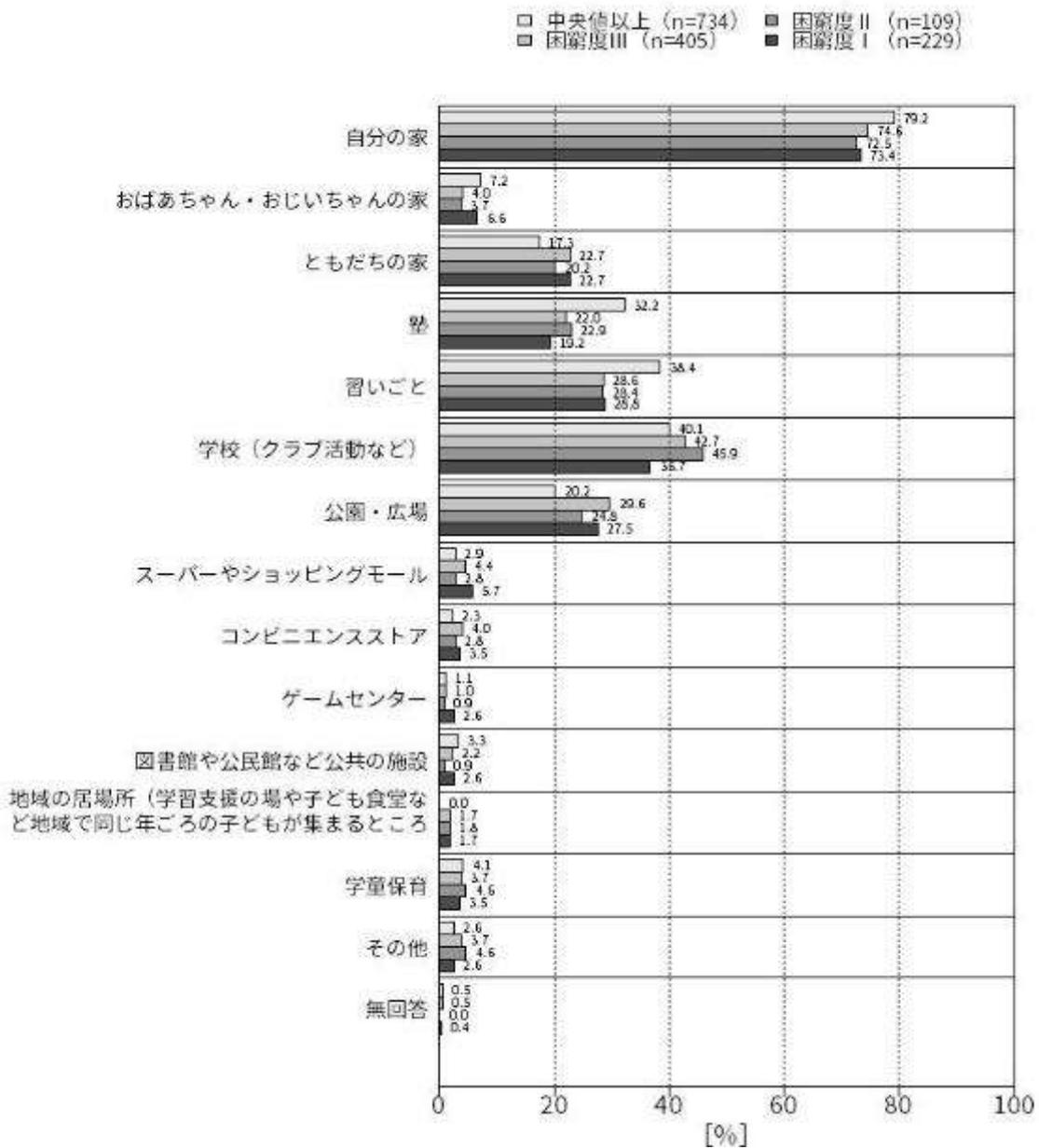
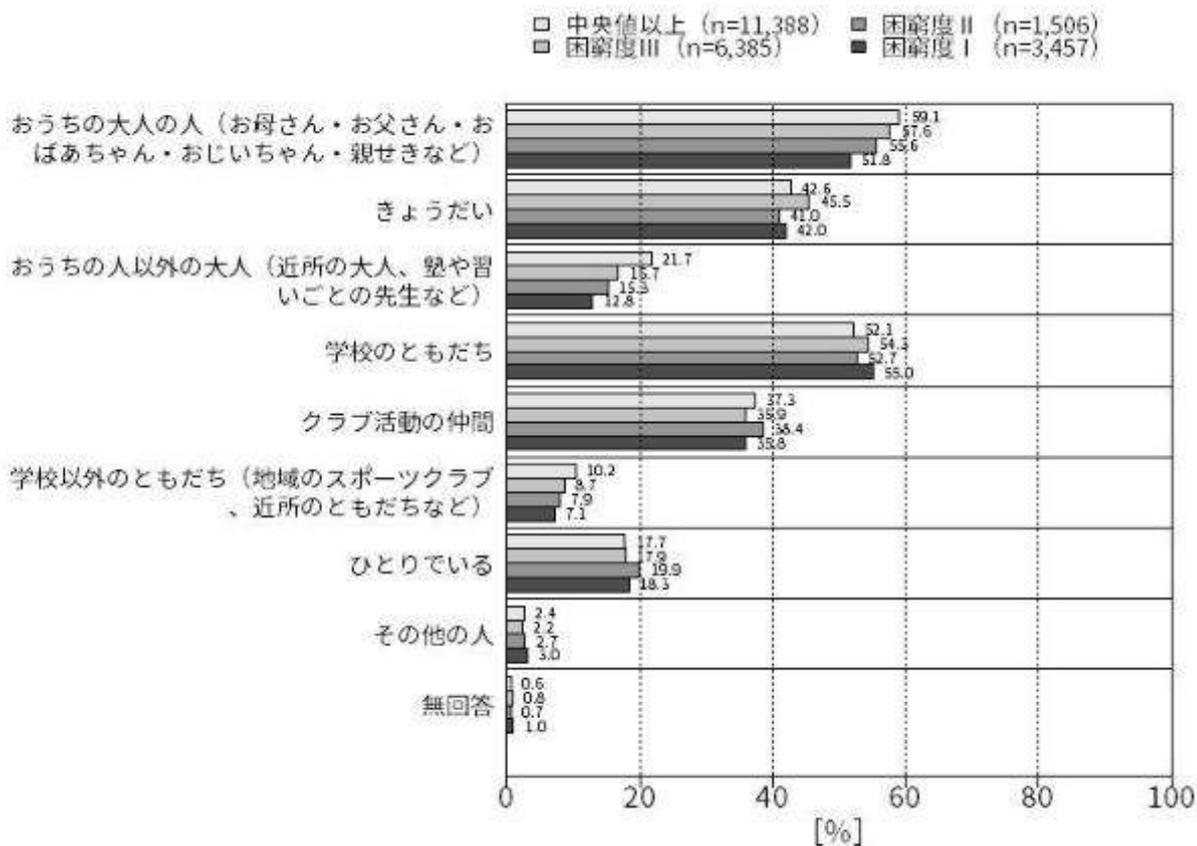


図 284. 困窮度別に見た、放課後に過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「ゲームセンター」2.6%（中央値以上群に対して、2.4 倍）、「スーパーやショッピングモール」5.7%（2 倍）、「コンビニエンスストア」3.5%（1.5 倍）、となり、困窮度 I 群において高い項目が複数みられた。また、中央値以上群では「塾」32.2%（困窮度 I 群に対して、1.7 倍）、「習いごと」38.4%（1.3 倍）、「図書館や公民館など公共の施設」3.3%（1.3 倍）が高かった

困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人（子ども票 問 12）

<大阪市 24 区>



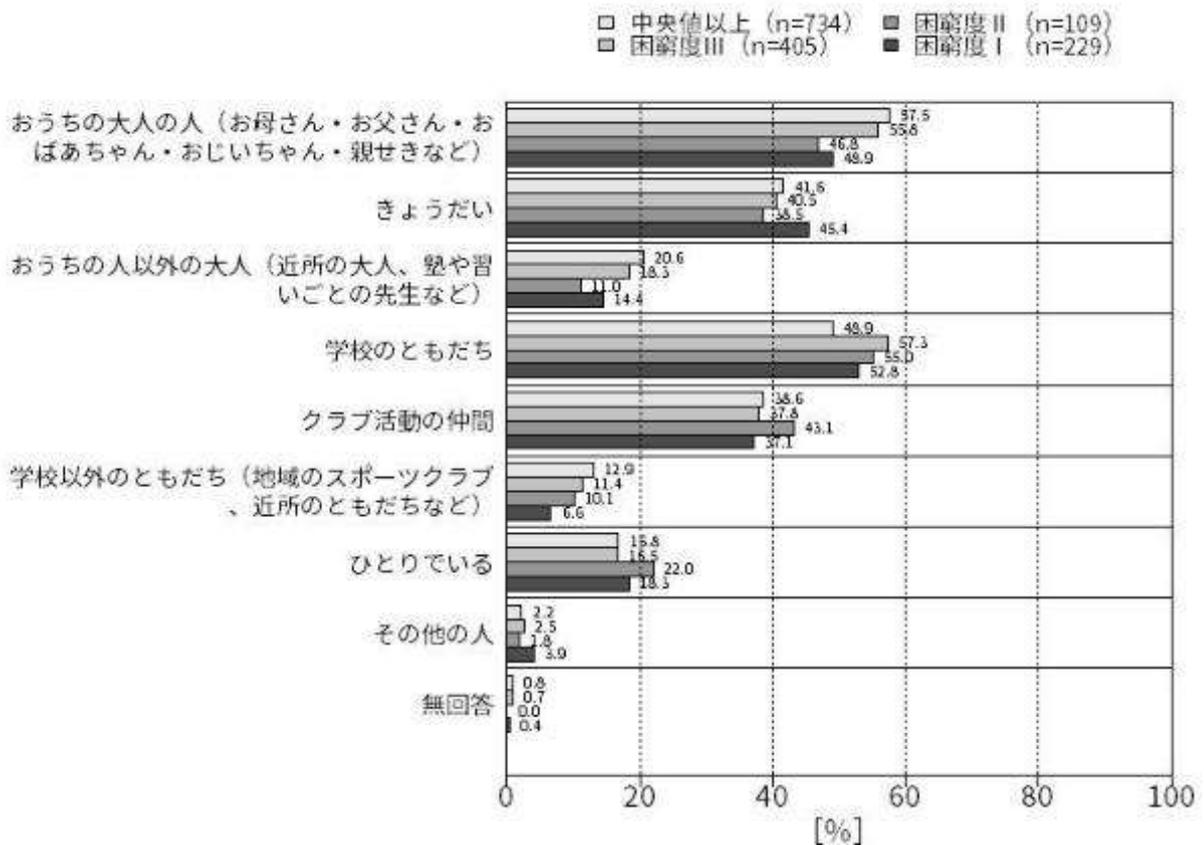


図 285. 困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「その他の人」3.9% (中央値以上群に対して、1.8 倍)、「きょうだい」45.4% (1.1 倍)、「ひとりである」18.3% (1.1 倍) と高く、中央値以上群では「学校以外のともだち (地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど)」12.9% (困窮度 I 群に対して、2 倍)、「おうちの人以外の大人 (近所の大人、塾や習いごとの先生など)」20.6% (1.4 倍)、「おうちの大人の人 (お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど)」57.5% (1.2 倍) が高かった。

困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票 問 11）

<大阪市 24 区>

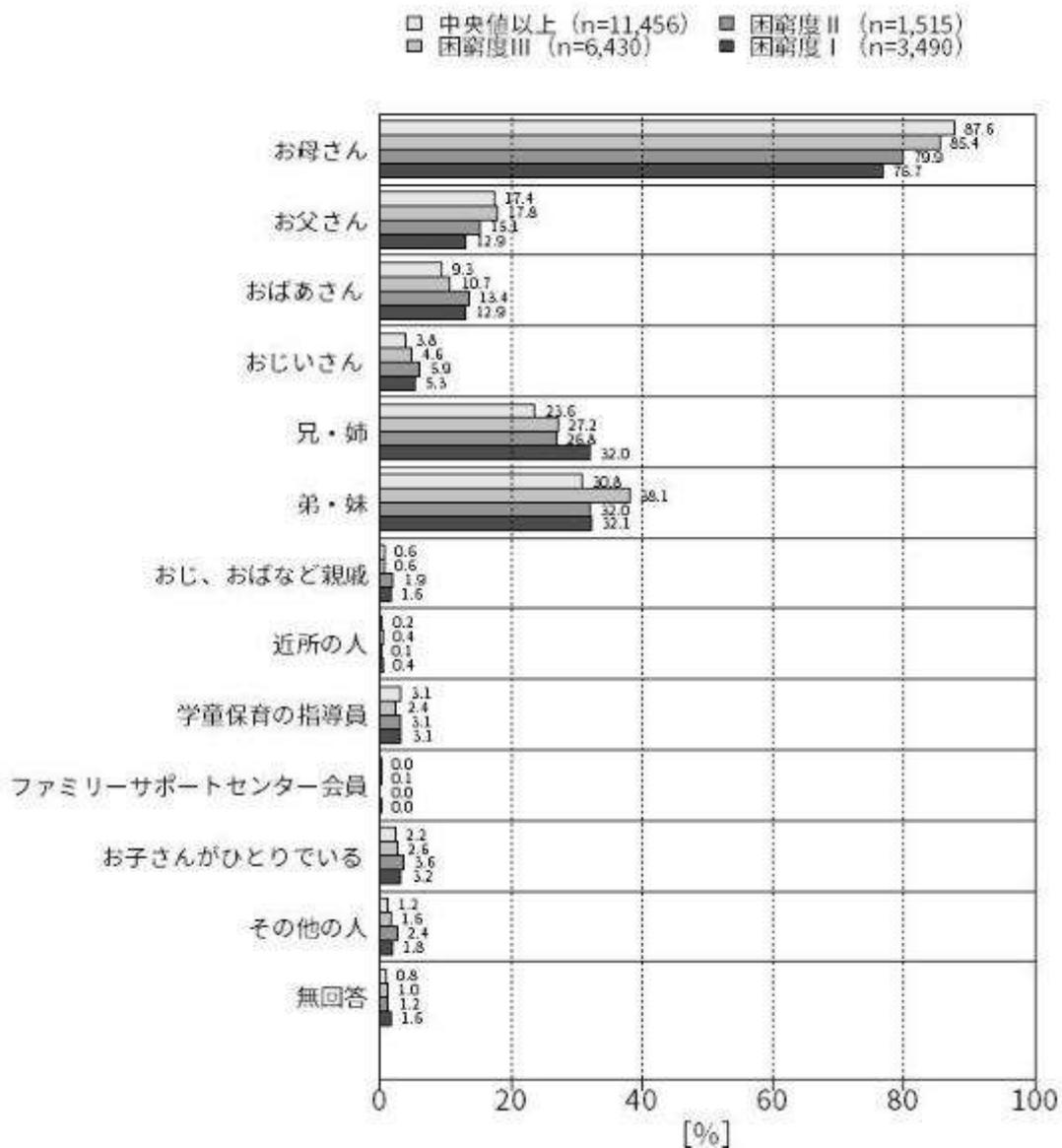


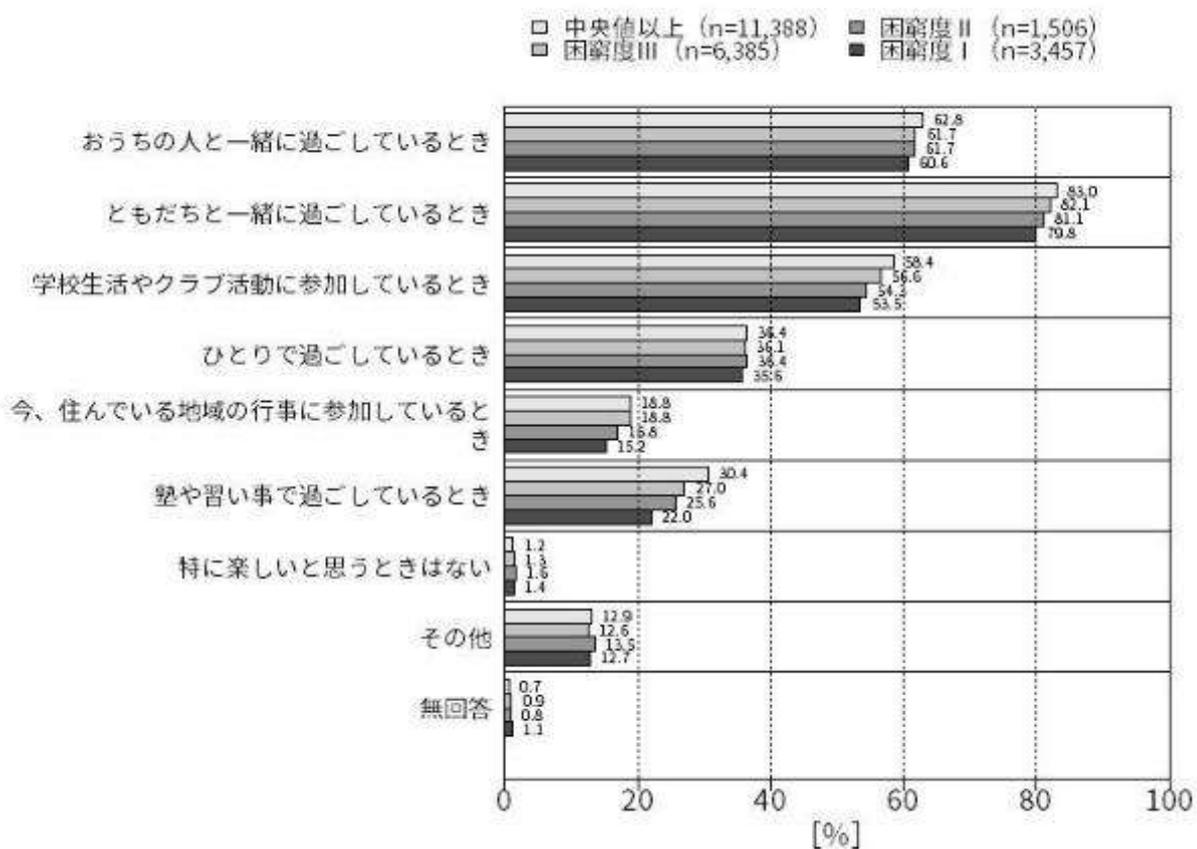


図 286. 困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

困窮度別に保護者が放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「おじ、おばなど親戚」2.2%（中央値以上群に対して、5.5 倍）、「ファミリーサポートセンター会員」0.4%（4 倍）、「その他の人」3%（2.7 倍）となり、困窮度 I 群において高い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票 問 11）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

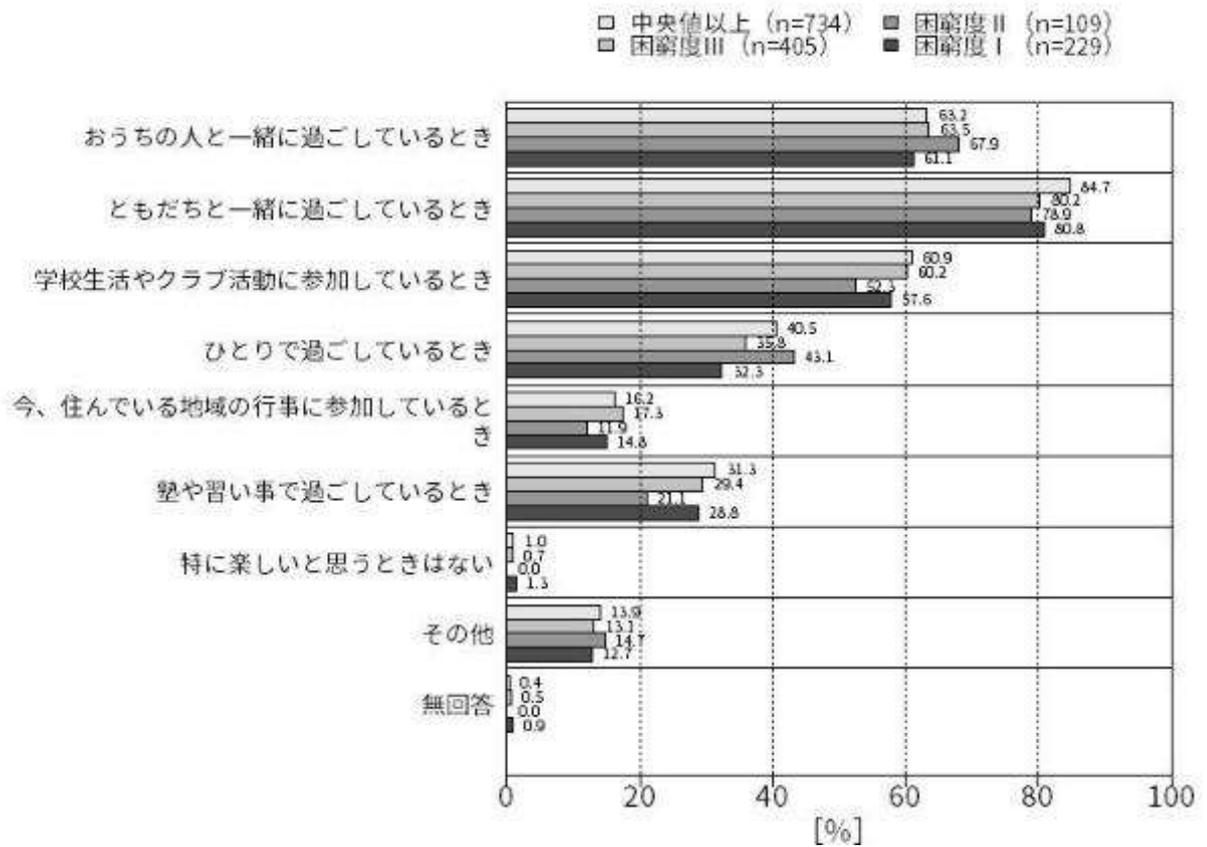
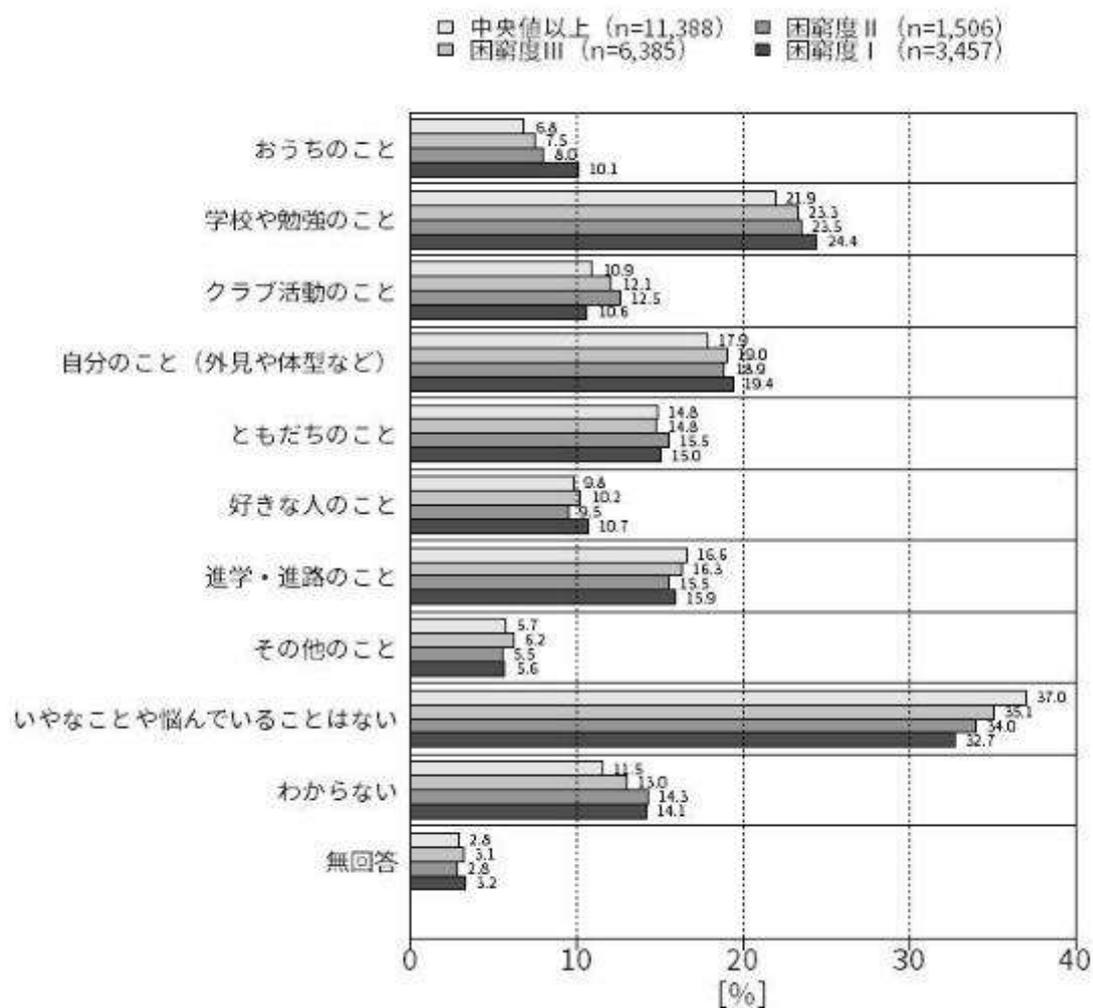


図 287. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「特に楽しいと思うときはない」1.3%（中央値以上群に対して、1.3 倍）が高かった。

困窮度別に見た、悩んでいること（子ども票 問21）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

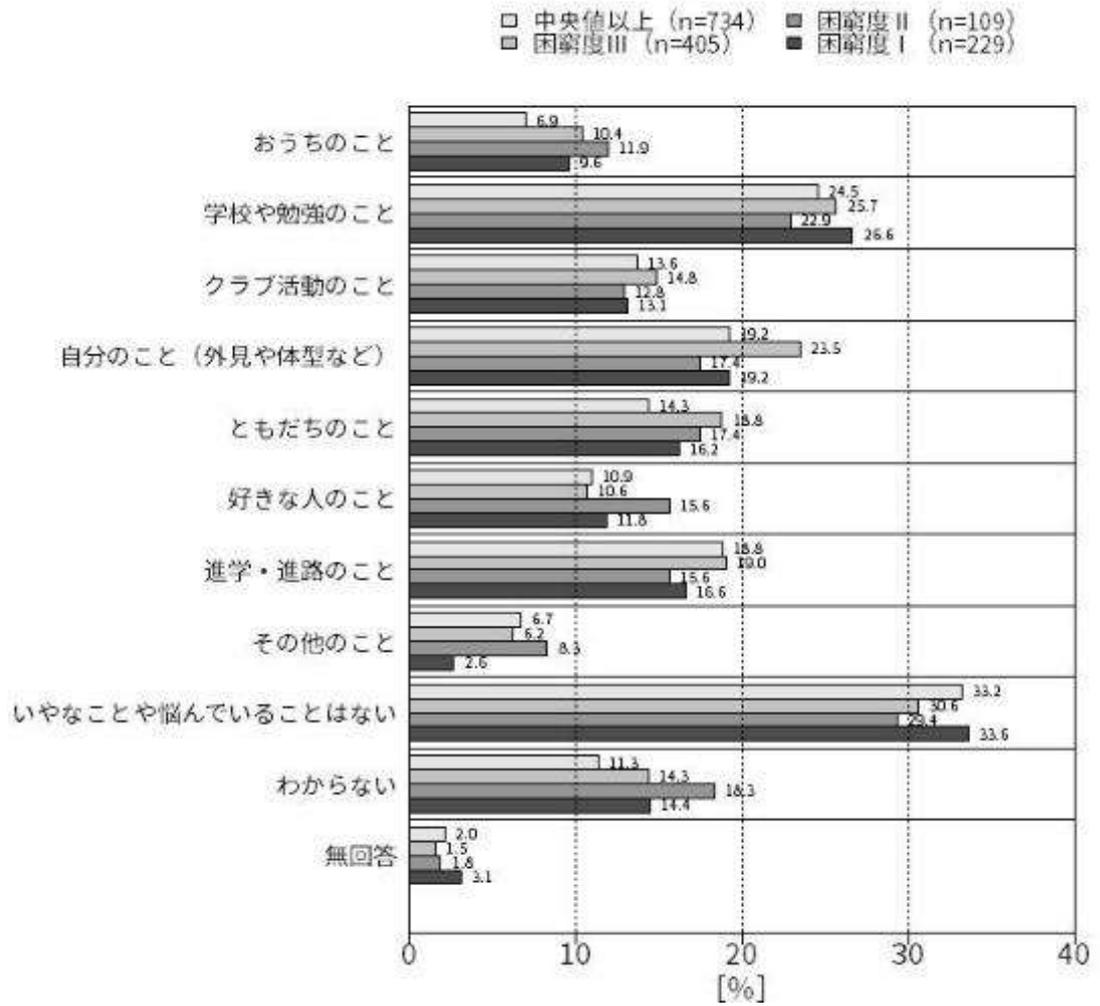
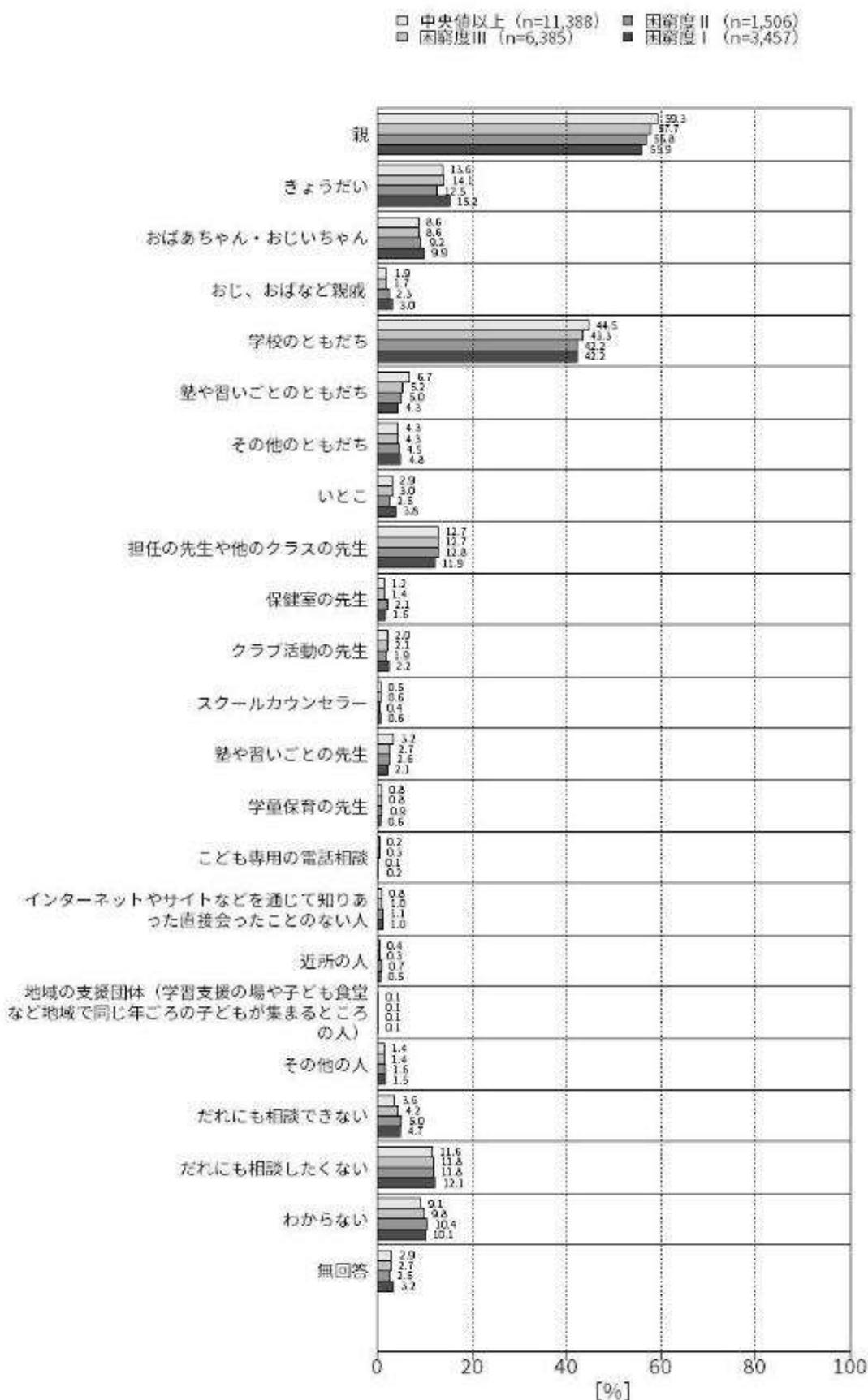


図 288. 困窮度別に見た、悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「おうちのこと」9.6%（中央値以上群に対して、1.4倍）、「わからない」14.4%（1.3倍）が高く、中央値以上群では「その他のこと」6.7%（困窮度Ⅰ群に対して、2.6倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票 問 22）

<大阪市 24 区>



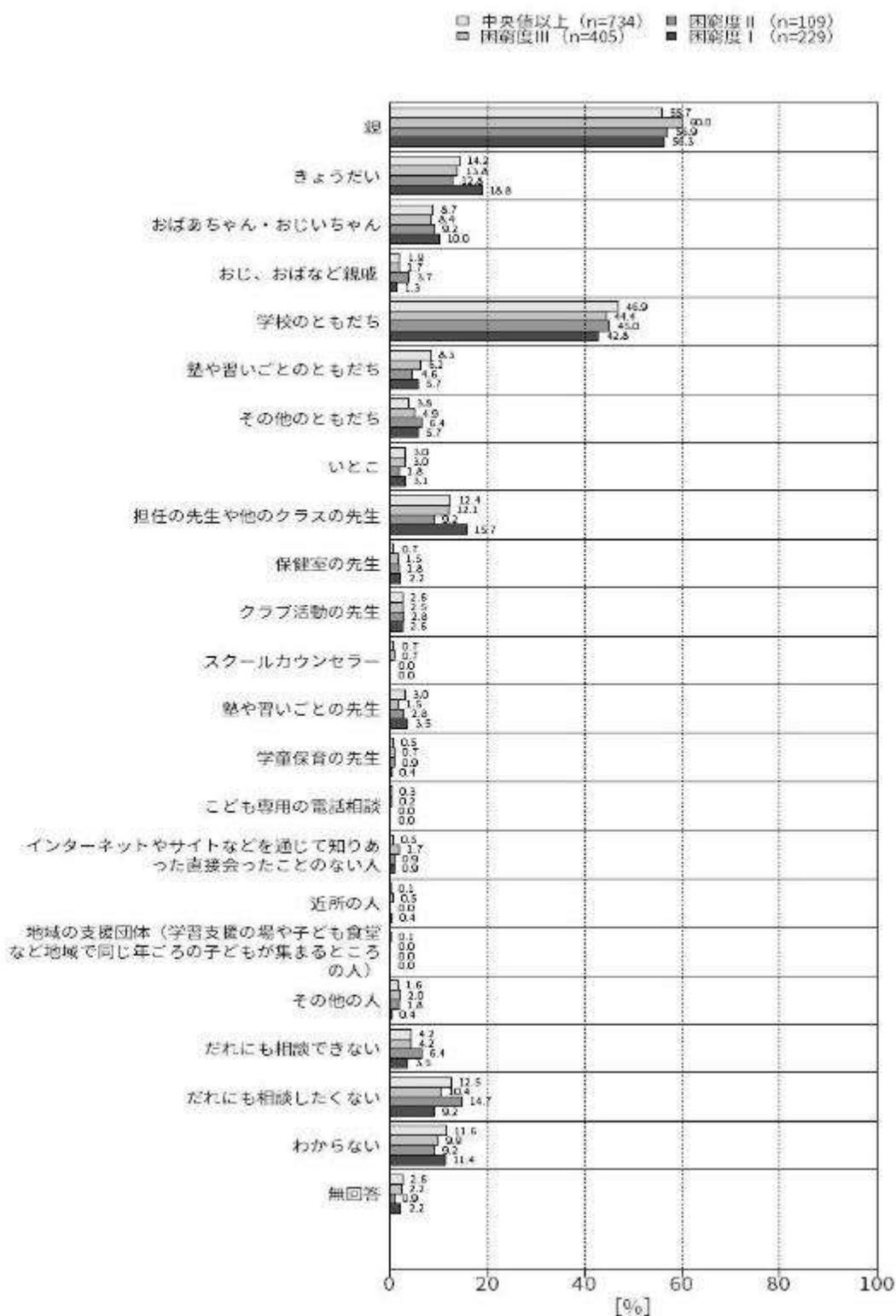
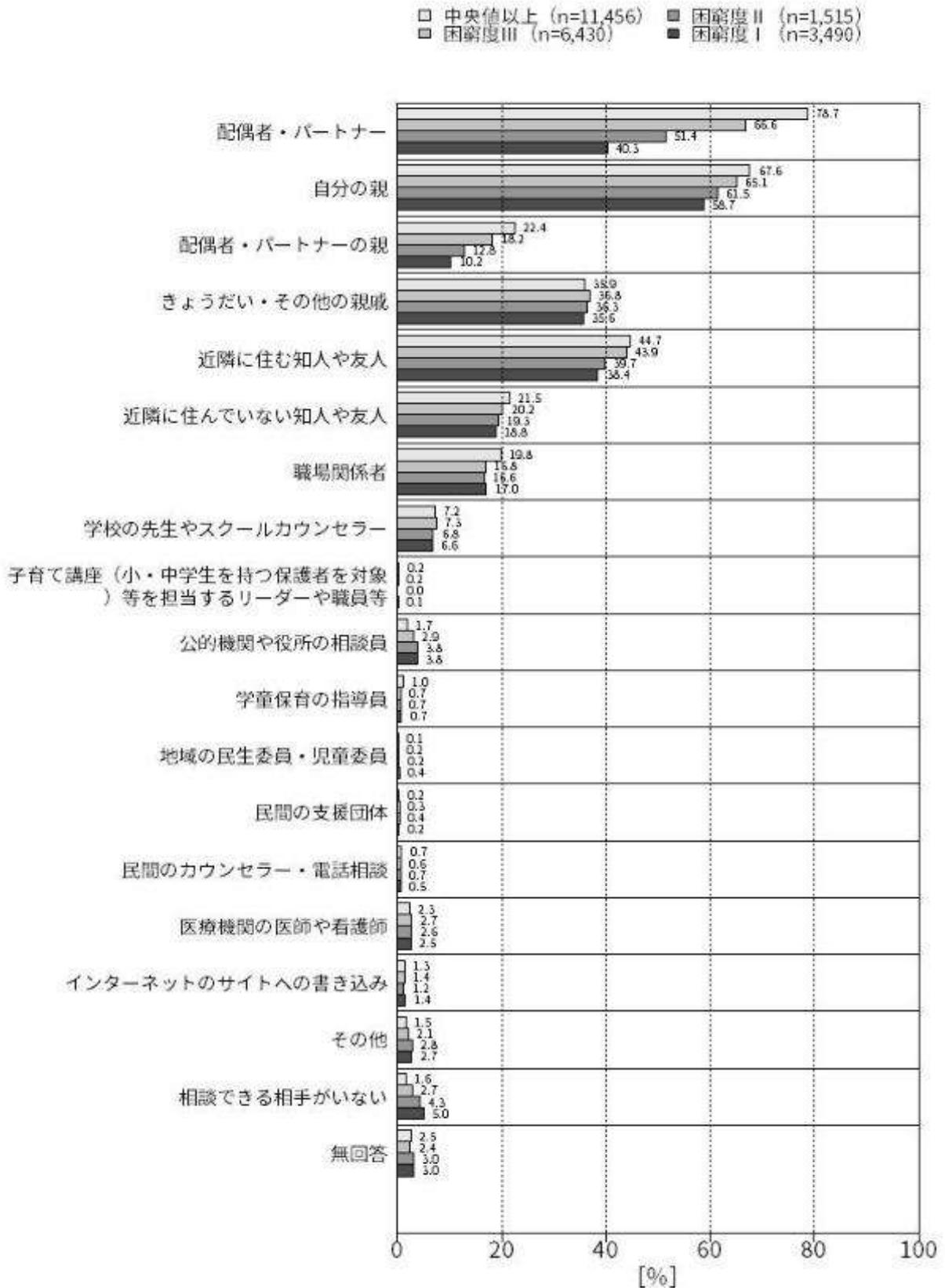


図 289. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「近所の人」0.4%（中央値以上群に対して、4倍）、「保健室の先生」2.2%（3.1倍）、「インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人」0.9%（1.8倍）が高かった。

困窮度別に見た、困ったときの相談先（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



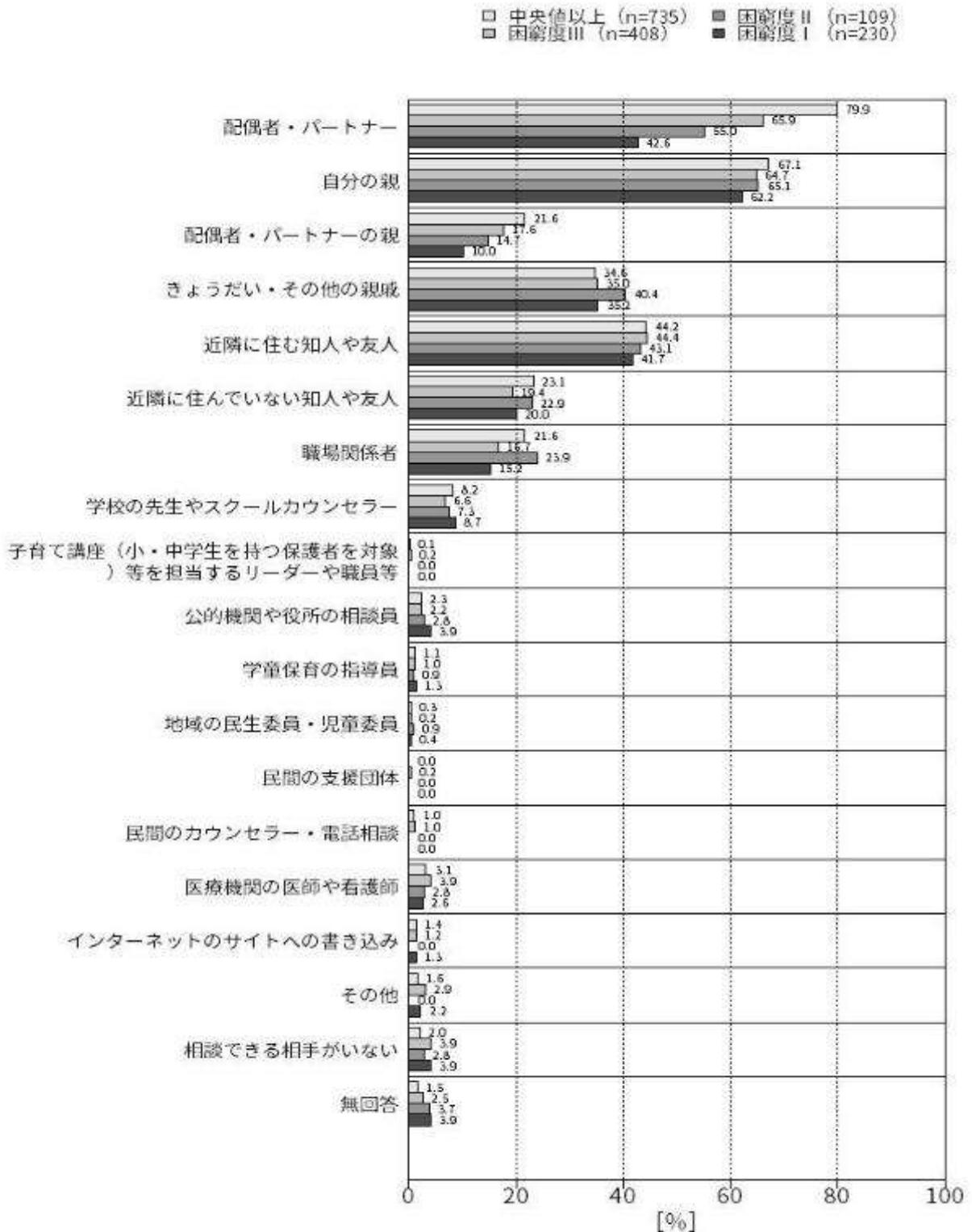
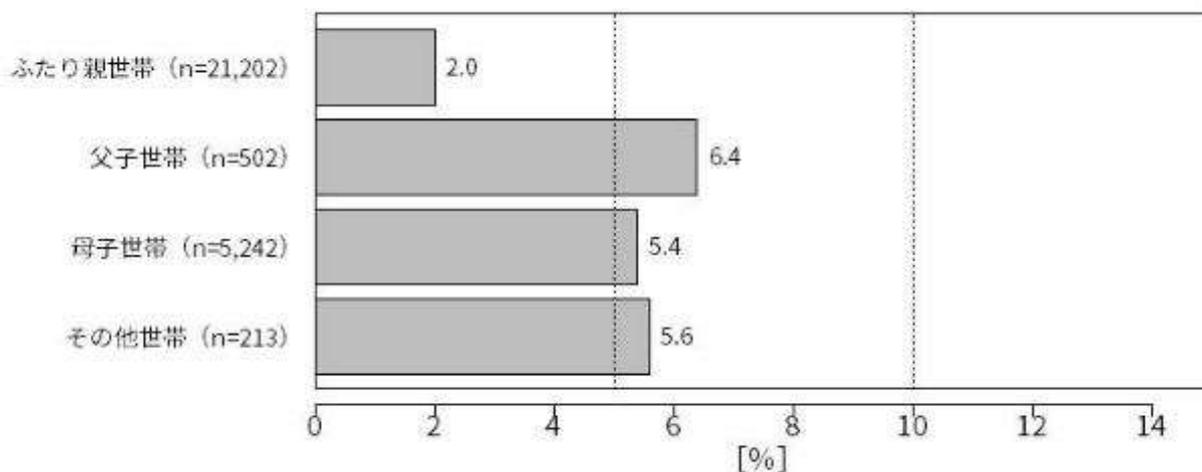


図 290. 困窮度別に見た、困ったときの相談先

困窮度別に保護者の困ったときの相談先を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」3.9%（中央値以上群に対して、2 倍）、「公的機関や役所の相談員」3.9%（1.7 倍）、「その他」2.2%（1.4 倍）が高かった。さらに、中央値以上群では「配偶者・パートナー」と回答した割合が 79.9% だったのに対して、困窮度 I 群では 42.6% だった。

世帯構成別に見た、相談相手のいない割合（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

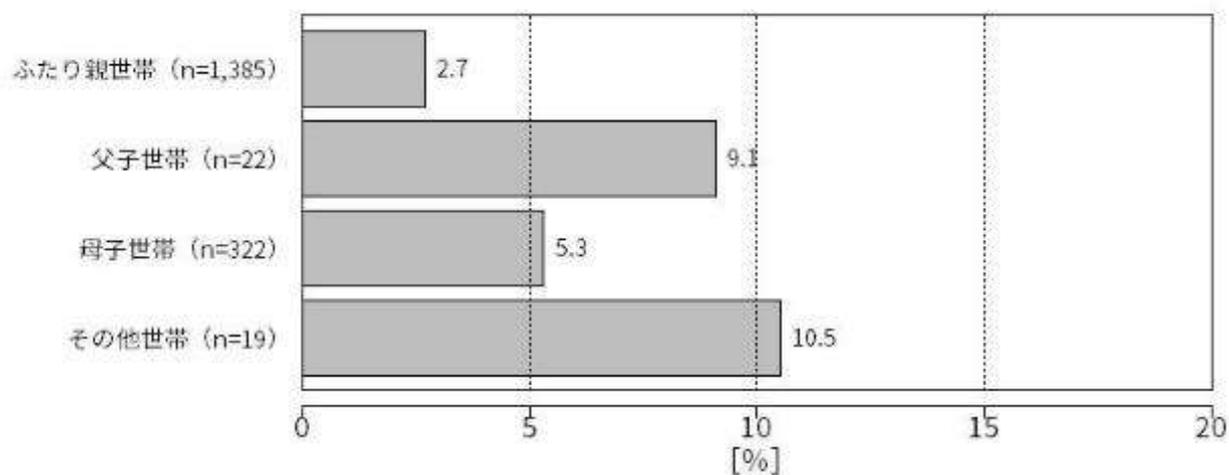


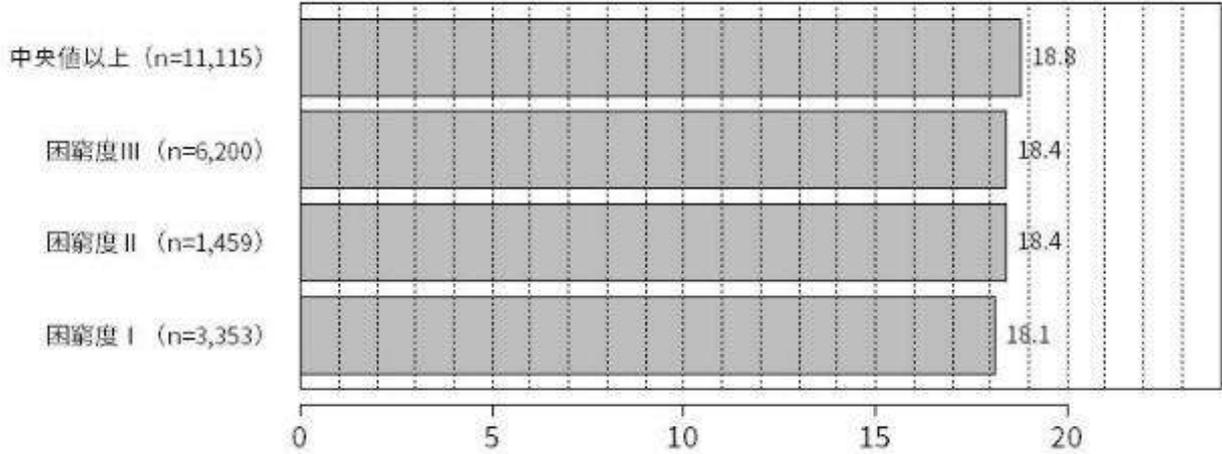
図 291. 世帯構成別に見た、相談相手のいない割合

世帯構成別に保護者の困ったときの相談先を見ると、「相談相手がない」と回答した人は、ふたり親世帯で2.7%、父子世帯で9.1%、母子世帯で5.3%と高かった。

困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー（子ども票 問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

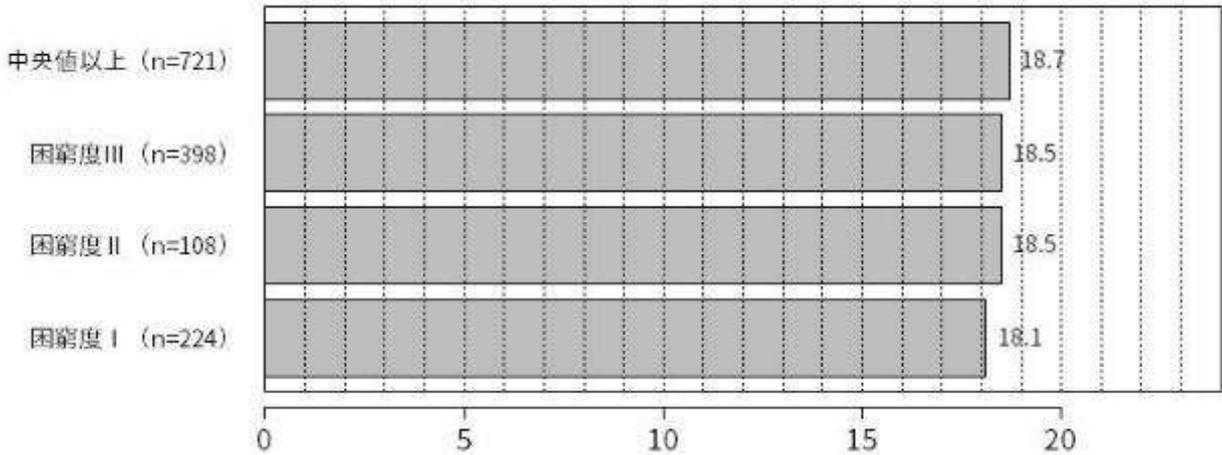


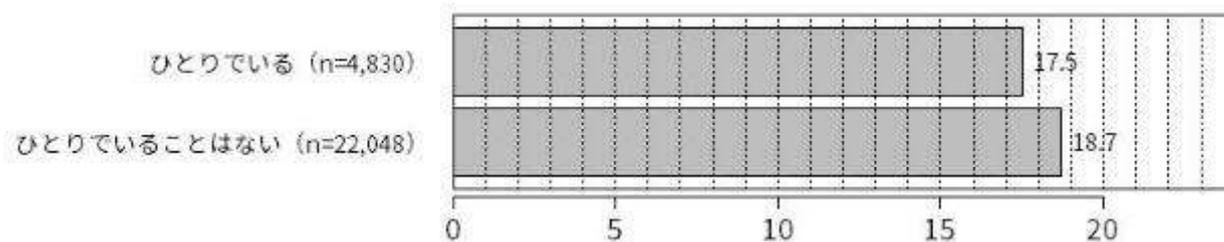
図 292. 困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均値は、中央値以上群で 18.7 点、困窮度Ⅲ群で 18.5 点、困窮度Ⅱ群で 18.5 点、困窮度Ⅰ群で 18.1 点であった。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー  
 (子ども票 問 12 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感 (セルフ・エフィカシー) については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

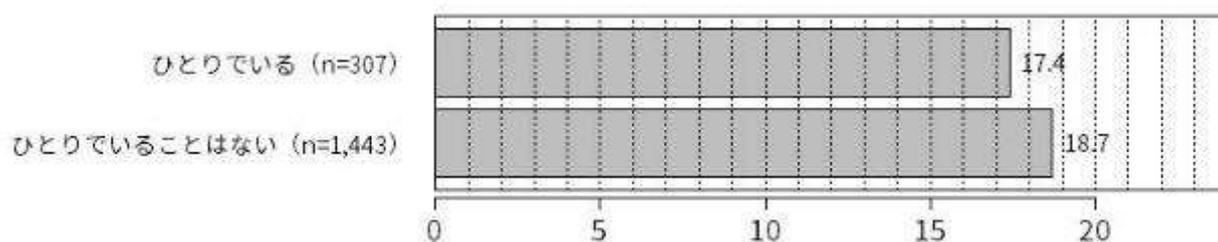


図 293. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感 (セルフ・エフィカシー) を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方は 17.4 点、ひとりでいることはない子どもは 18.7 点であった。

困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 22 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

※「あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談しますか。(だれに話しますか。)」に対し、以下のようにまとめた。

家族・親戚に相談：「親」「きょうだい」「おばあちゃん・おじいちゃん」「おじ・おばなど親戚」「いとこ」のうち1つ以上に回答した人

ともだちに相談：「学校のともだち」「塾や習い事のともだち」「その他のともだち」のうち1つ以上に回答した人

先生に相談する：「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」「クラブ活動や部活の先生」のうち1つ以上に回答した人

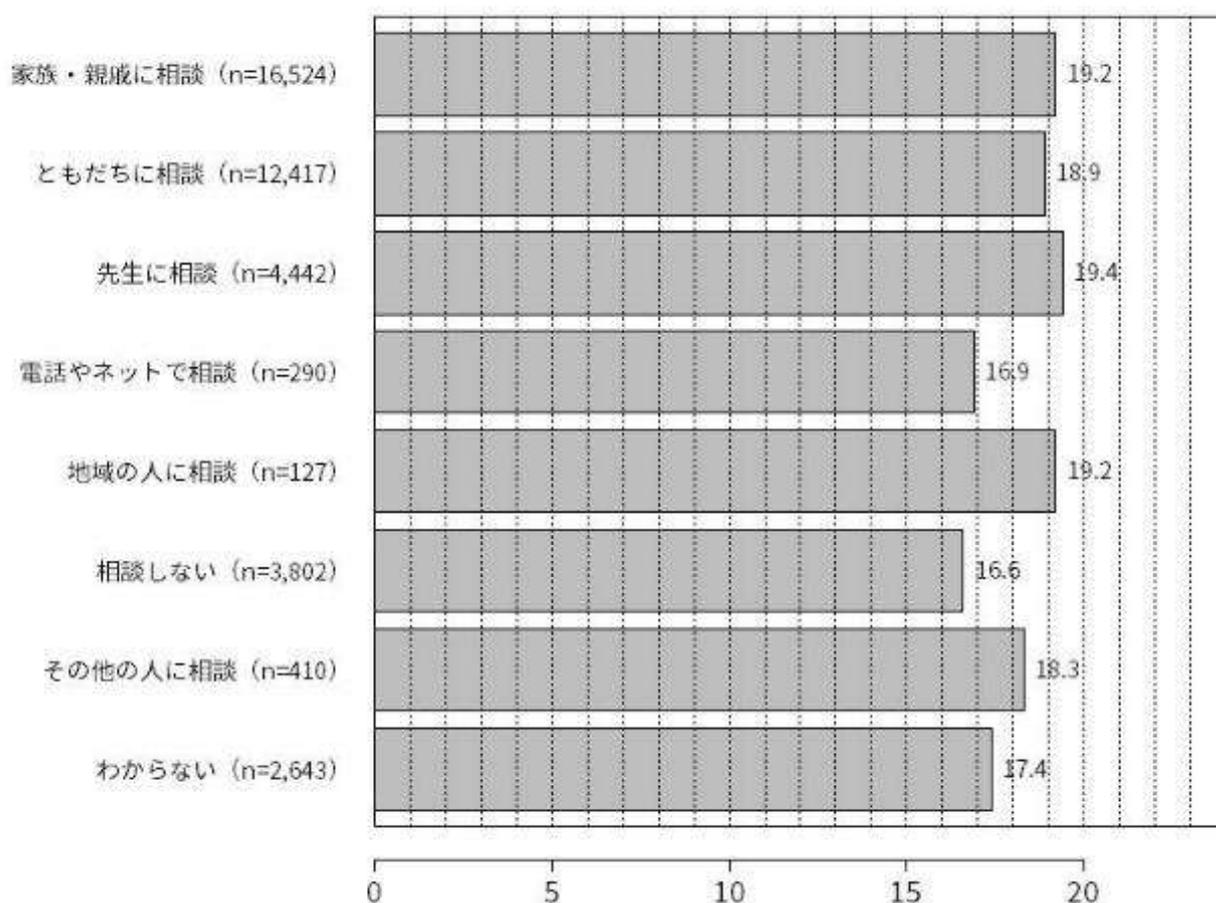
「スクールカウンセラー」「塾や習いごとの先生」「学童保育、児童いきいき放課後事業の先生」のうち1つ以上に回答した人

電話やネットで相談する群：「子ども専用の電話相談」「インターネットやサイトを通じて知り合った直接会ったことのない人」のうち1つ以上に回答した人

地域の人に相談する群：「近所の人」「地域の支援団体」のうち1つ以上に回答した人

相談しない群：「だれにも相談できない」「だれにも相談したくない」のうち1つ以上に回答した人

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

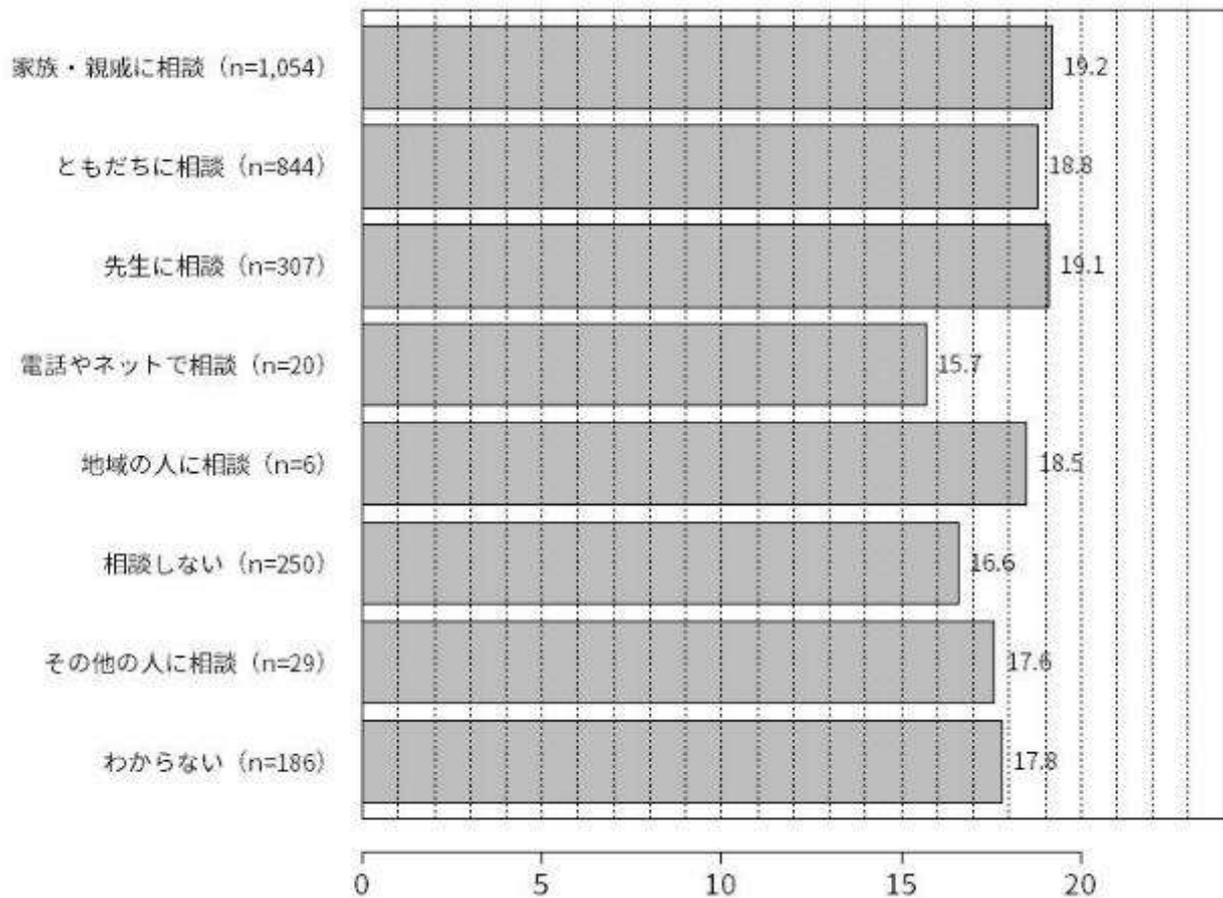


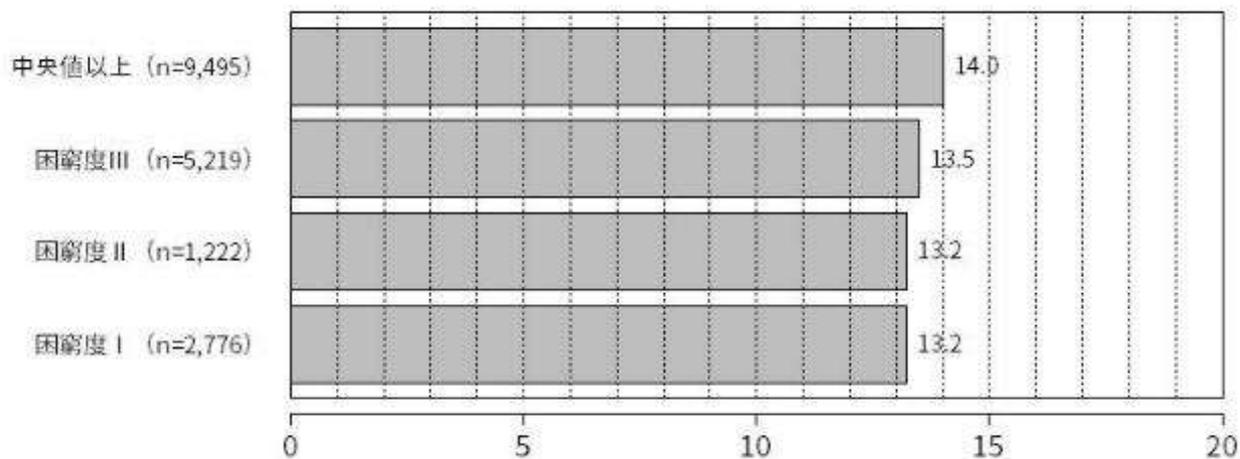
図 294. 困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）によって子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、低い順に「電話やネットで相談」15.7点、「相談しない」16.6点、「その他の人に相談」17.6点であった。

困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票 問 29①～⑤）

※保護者のセルフ・エフィカシーについては図 197 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

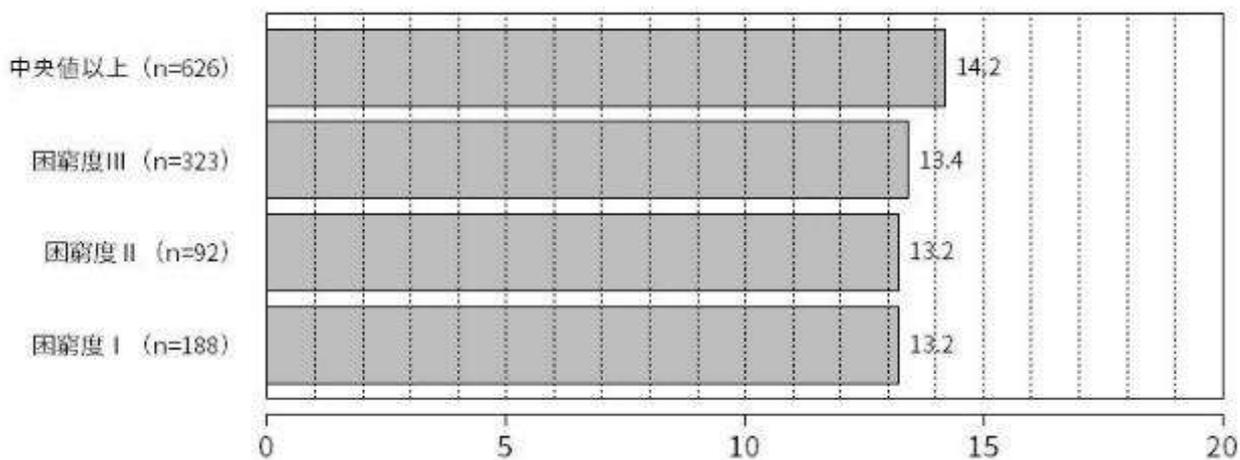


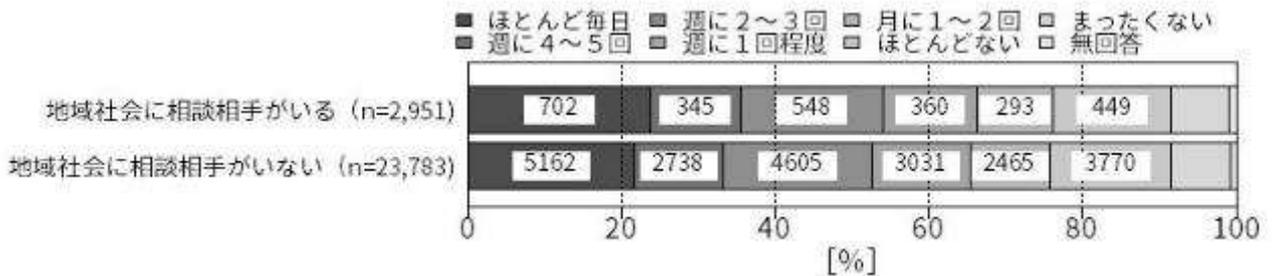
図 295. 困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

困窮度別に保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、中央値以上群で 14.2 点、困窮度Ⅰ群で 13.2 点であった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (家の手伝いをするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10④)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

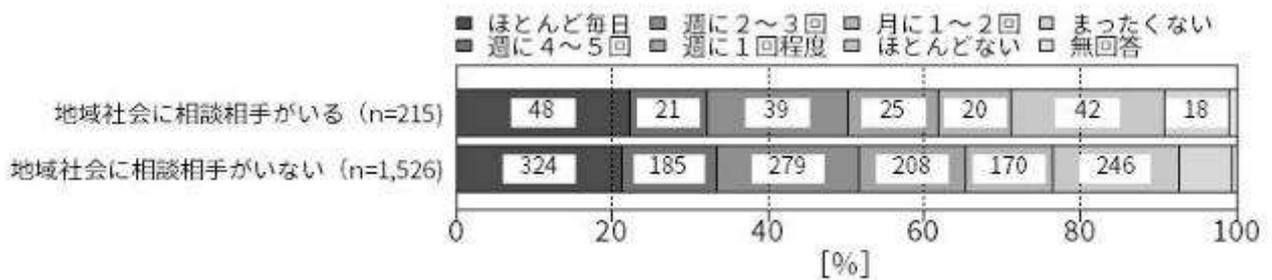


図 296. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (家の手伝いをするか)

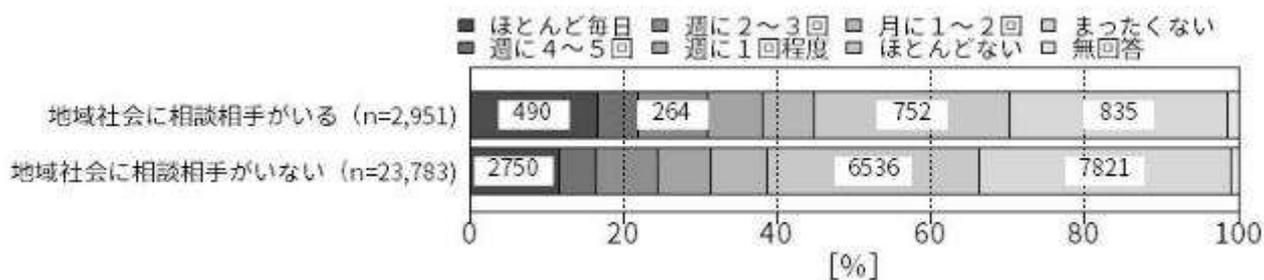
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり (家の手伝いをするか) を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「おうちの手伝いをするか」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人に宿題をみてもらうか) (保護者票 問24 × 子ども票 問10⑤)

※「地域社会に相談相手がいる」については図283上の説明参照。

<大阪市24区>



<大阪市住吉区>

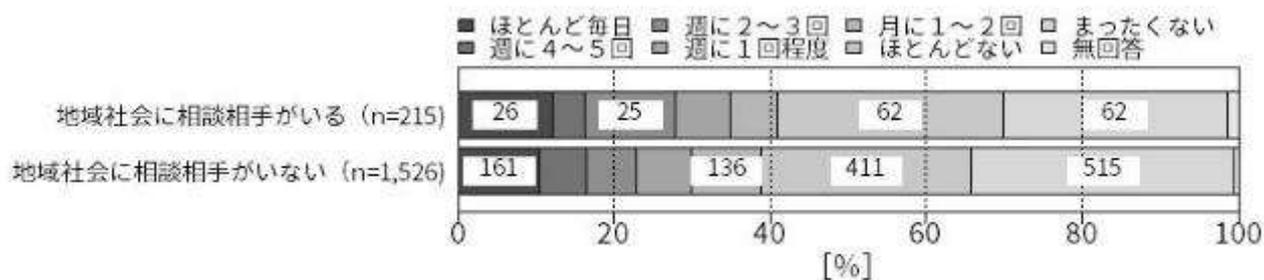


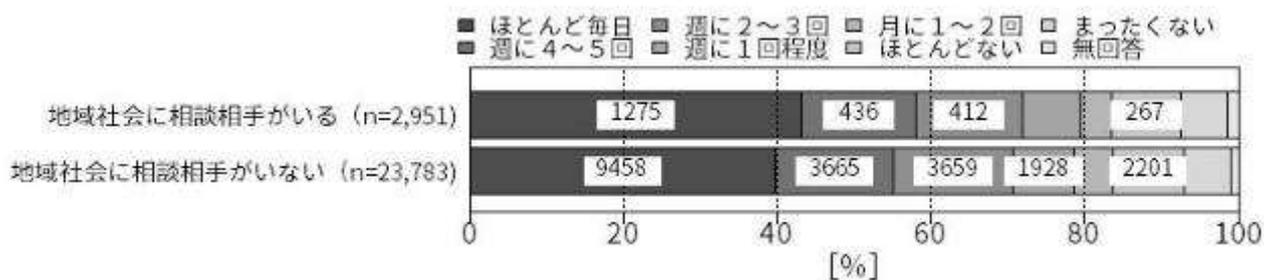
図297. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
(おうちの大人に宿題をみてもらうか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっている」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と学校の話をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑥)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

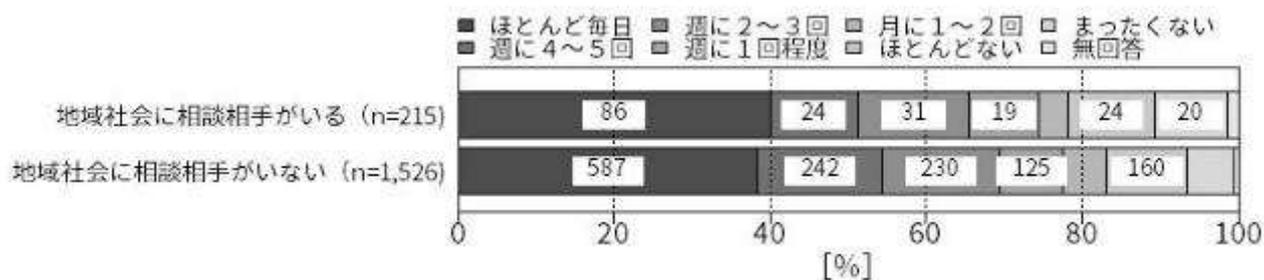


図 298. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と学校の話をするか)

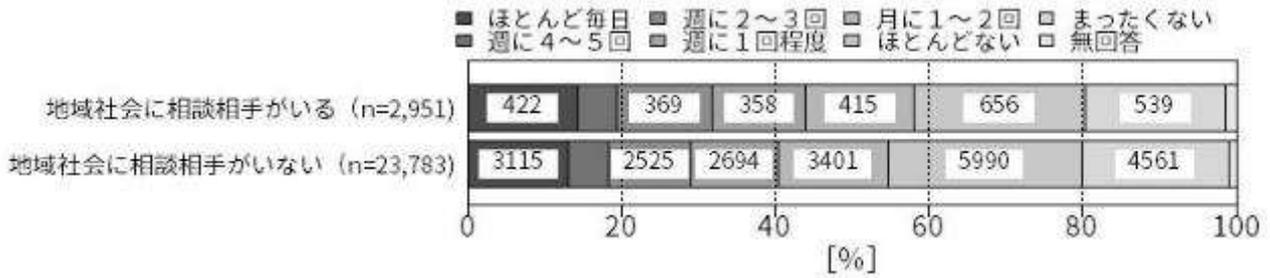
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と学校の話をするか) を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人と学校のできごとについて話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑦)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

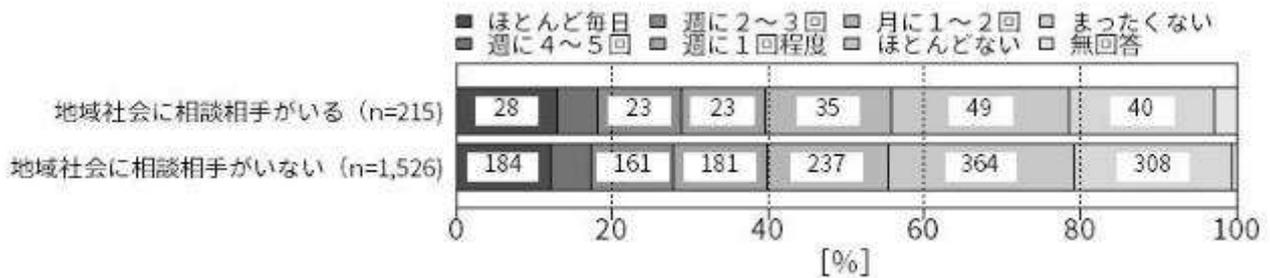


図 299. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが「おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりする」に差はなかった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と社会のできごとを話すか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑧)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

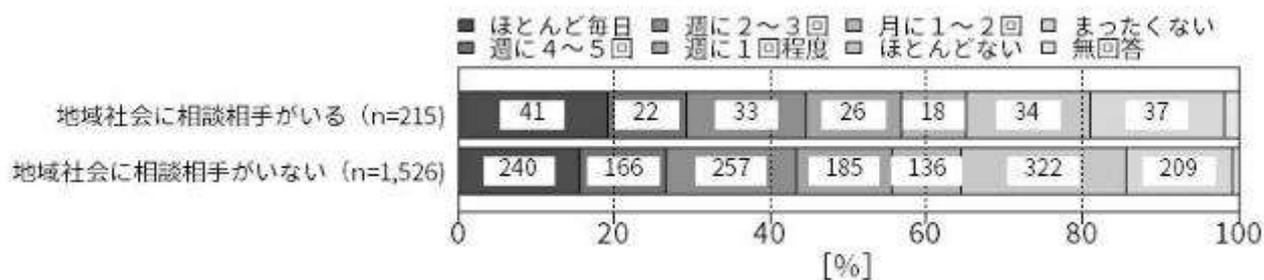


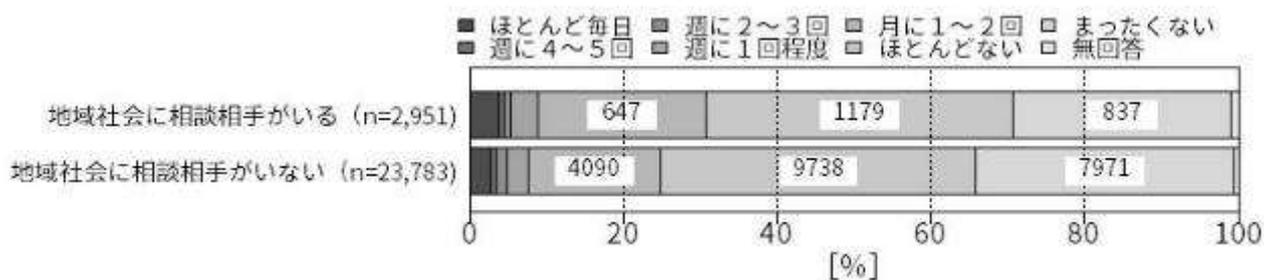
図 300. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
(おうちの大人と社会のできごとを話すか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「ニュースなど社会のできごとを話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と文化活動をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10㉑)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

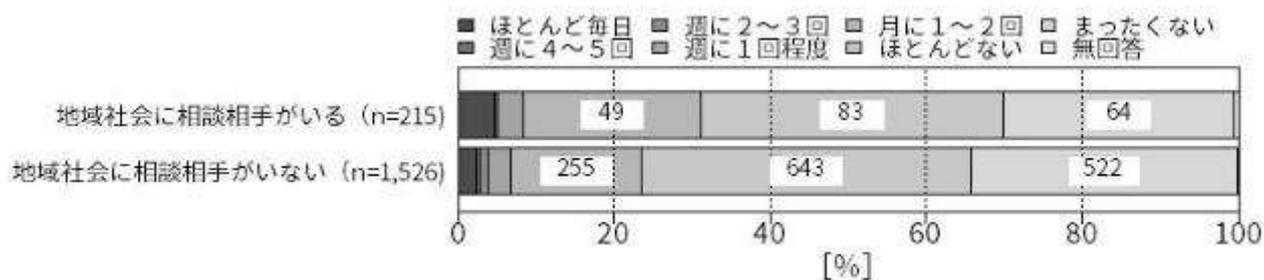


図 301. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と文化活動をするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と文化活動をするか) を見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、「おうちの大人と文化活動 (図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど) をする」に「まったく」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と一緒に外出するか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑩)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

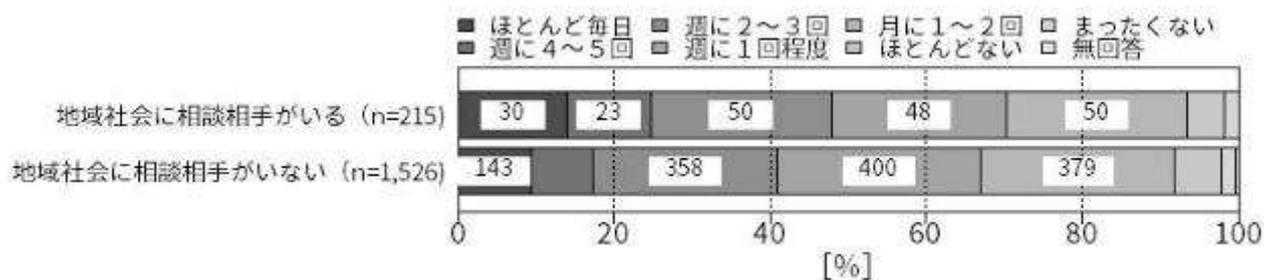


図 302. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と一緒に外出するか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と一緒に外出するか) を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「おうちの大人の人と一緒に外出する」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

## <対人関係に関する考察>

子どもが放課後一緒に過ごす相手について、困窮度Ⅰ群において数値の高い項目を見ると、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親戚など）」は、中央値以上群では57.5%（大阪市全体：59.1%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群では48.9%（大阪市全体：51.8%）と低くなっていた。また、「ひとりである」と回答した割合は困窮度Ⅱ群において22.0%（大阪市全体：19.9%）と高かった。大阪市全体と同様に、困窮度の高い世帯では、子どもは、保護者と過ごして楽しいと思える機会や保護者に対して悩みを相談する機会を十分に持てていない可能性が懸念される。

また、嫌なことや悩んでいることについて、困窮度別に高い項目を見ると、困窮度Ⅰ群では「おうちのこと」9.6%（大阪市全体：10.1%）が高かった。しかし、本区においては大阪市全体ほど大きな差は見られなかった。

本調査では、子どもが放課後過ごす場所として、中央値以上群では「塾」が32.2%（大阪市全体：30.8%）、「習いごと」が38.4%（大阪市全体：36.4%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群ではそれぞれ19.2%（大阪市全体：17.5%）、28.8%（大阪市全体：22.0%）であった。そのため、放課後一緒に過ごす相手も「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」や「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」は、中央値以上群ではそれぞれ20.6%、12.9%（大阪市全体：21.7%、10.2%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群では14.4%、6.6%（大阪市全体：12.8%、7.1%）と低くなっている。大阪市全体と同様に、子どもが塾や習い事に通うことを促す対策は、ただ学習理解や専門技能の獲得を促しているだけではなく、子どもの交友関係の拡大を促している可能性が考えられる。

保護者が地域社会に相談相手がない場合、おうちの大人の人と朝食を食べる頻度が「ほとんどない」または「まったくない」子どもは31.8%（大阪市全体：29.7%）であり、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうことが「まったくない」子どもは33.7%（大阪市全体：32.9%）、おうちの大人の人と文化活動することが「まったくない」子どもは34.2%（大阪市全体：33.5%）と高くなっていた。地域社会に相談相手がいる保護者は子どもとの関係について相談できる機会を多く持つため、子どもと良好な関係を築きやすいのかもしれない。ただし、本区では大阪市全体ほど地域社会に相談相手がいることの効果を見込めていないことも考えられる。地域でのコミュニティの形成を促したり、地域の相談員などの配置を促したりといった対策をすることで、親子間での良い関係が促される可能性もあるものの、地域コミュニティの形についても考える必要があるかもしれない。



## B. 5歳児保護者調査報告書

### 1. 回答者の属性

#### 5歳児-1 続柄

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

大阪市住吉区では、「お母さん」が81.6%、「お父さん」が4.7%、「おばあさん・おじいさん」が0.4%、「おじ、おばなど親戚」が該当なし、「施設職員・ファミリーホーム・里親」が0.2%、「その他の人」が0.3%、「無回答」が12.8%であった。

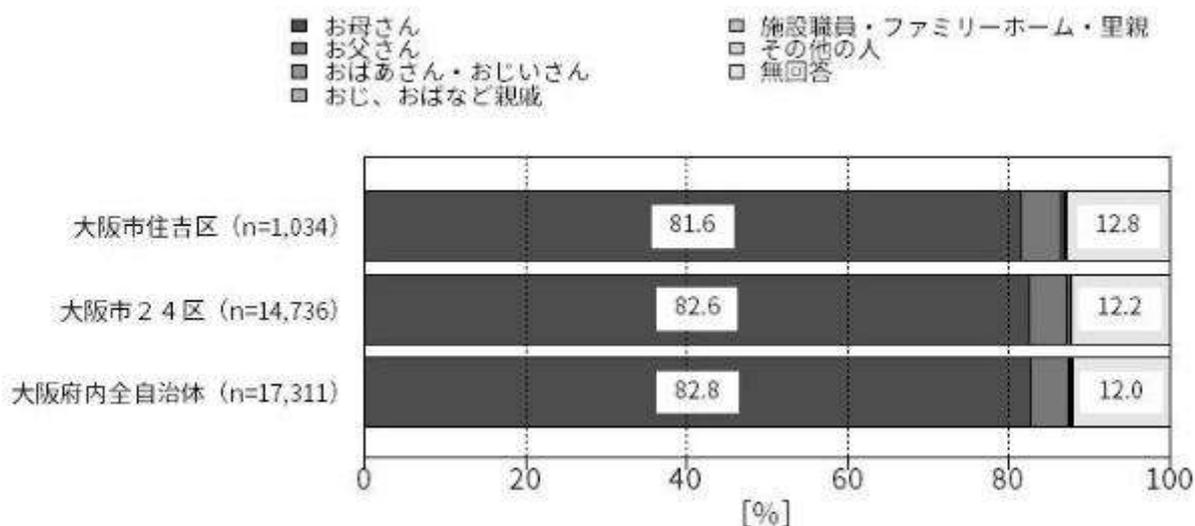


図 1. 回答者の続柄

### 2. 単純集計

#### (1) 経済状況

##### 5歳児-41-4 世帯収入額

(4) 前年(2015年)のあなたの世帯の収入の合計額は、およそいくらでしたか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

大阪市住吉区では、「400～450万円未満」が8.2%、「350～400万円未満」が7.8%、「450～500万円未満」が7.4%、「300～350万円未満」が7.3%、「わからない」が6.7%の順に高くなっている。(グラフは大阪市24区・大阪府内全体のもののみ)